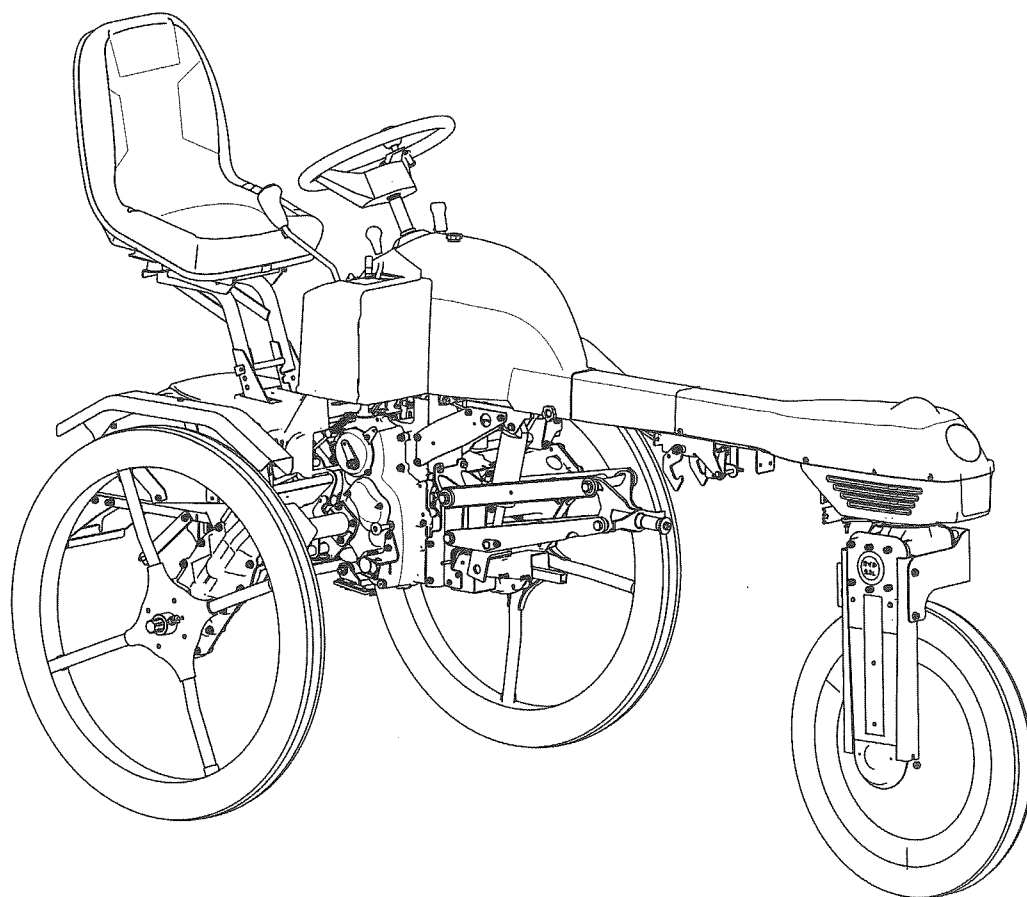


使用する前に必ずよく読んで正しく使いましょう

みのる乗用管理機

KE3A

取扱説明書




みのる産業株式会社

乗用管理機重要安全ポイント



1. ほ場まで移動するときは、トラック等にのせて運搬します。
2. 燃料を補給するときは、火気厳禁とします。
エンジンを停止し、冷機状態で行ないます。
3. エンジンを始動するときは、
主変速レバーを「中立」・副変速レバーを「PTO」・ブレーキペダルを
ロックし、周囲の安全を確認してから行ないます。
4. 乗用管理機を移動するときは、運転者以外乗車せず、
左右に転倒しないよう低速で行ないます。
5. トラックに積み降ろしするときは、
乗って後進で、積み込みします。
強度・幅・長さの充分あるスリップしないアユミ板を使用します。
スピードを落とし慎重に上り・下りします。
6. ほ場に出入りするときは、
乗って後進で、ほ場から上ります。
スピードを落とし畦に直角に移動します。
7. 乗用管理機を点検整備するときは、必ず安全な場所で
エンジンを止め、作業部をフックで固定します。
8. 補助者と共同作業を行なうときは、合図をし、安全を確認します。





この機械をお使いになるときは復唱してください。

安全に作業していただくため、ぜひ守っていただきたい重要安全ポイントは上記の通りですが、これ以外にも本文の中で安全上ぜひ守っていただきたい事項を  を付けて説明しております。

よくお読みいただき、必ず守っていただくようお願いいたします。

はじめに

- このたびは、本乗用管理機をお買い上げいただき、まことにありがとうございました。
- 本製品は、純正アタッチメントのみ使用してください。他の用途に使用しないでください。
- 使用目的以外の作業や改造はしないでください。
- この取扱説明書は、本製品を使用する際に、ぜひ守っていただきたい安全作業に関する基礎的事項、適切な状態で使っていただくための正しい運転・調整・整備に関する技術的事項を中心に構成しております。
- 本製品を初めてご使用になるときはもちろん、日頃の運転・取り扱いの前にも入念に読み、内容を充分理解された上で、安全確実な作業を心がけてください。
- この取扱説明書は、いつでも取り出して読めるように保管してください。
- 本製品を貸与または譲渡される場合は、相手の方に取扱説明書の内容を充分理解していただき、この取扱説明書を本製品に添付してお渡してください。
- この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、速やかに購入先にご注文ください。
- なお、品質・性能向上あるいは安全上のため、使用部品の変更を行なうことがあります。その際には、本書の内容及び、イラストなどの一部が、本製品と一致しない場合がありますが、あらかじめご了承ください。
- もし、ご不明な点がございましたら、ご遠慮なく購入先にご相談ください。
- 本取扱説明書に記載した注意事項や機械に貼られた  の表示があるラベルは、人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。
- なお、 の表示があるラベルが破損したり、はがれた場合はお買い上げの購入先に連絡し、必ず所定の位置に貼ってください。
- 本取扱説明書では、特に重要と考えられる取り扱い上の注意事項について次のように表示しています。

表示	重要度
 危険	その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示しております。
 警告	その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性のあるものを示しております。
 注意	その警告に従わなかった場合、ケガを負う恐れのあるものを示しております。
 重要	この項目に従わなかった場合、物的損害をこうむる恐れのあるものを示しております。 また、商品の性能を発揮させるための注意事項を説明しております。 よく読んで商品の性能を最大限発揮してご使用ください。

目次

安全のポイント	1
公道走行の禁止	1
安全な作業をするために	1
電装関係を取り扱う時は	8
安全表示ラベルについて	9
使用上のポイント	11
保証とサービスについて	12
各部の名称と取り扱い	13
各部の名称	13
各部の取り扱い	15
作業前点検	20
給油・注油箇所の点検と補給	20
ペダル・レバーの点検	23
運転のしかた	24
エンジンの始動と停止のしかた	24
発進・停止・駐車のみかた	26
移動・運搬のみかた	28
ほ場への出入りのしかた	31
作業のみかた	32
作業前の準備	32

点検整備	-----	35
定期点検	-----	35
洗車時の注意	-----	35
定期点検・整備一覧表	-----	36
給油・注油点検一覧表	-----	37
燃料・オイルの点検・補給・交換	-----	37
燃料の排出	-----	38
エンジンオイル	-----	38
変速ミッションオイル	-----	39
後輪ミッションオイル(左右)	-----	39
燃料フィルターポットの点検・掃除	-----	40
エアクリーナエレメントの点検・掃除	-----	41
点火プラグの点検・掃除・調整	-----	41
燃料ホースの点検・交換	-----	42
HST駆動ベルトの点検	-----	42
変速ミッションオイルフィルタカートリッジの交換	-----	43
車輪の点検	-----	43
バッテリーの点検・交換	-----	45
配線コード・ヒューズの点検・交換	-----	48
作業後の手入れ	-----	49
毎日の作業後	-----	49
長期格納時	-----	49
不調時の処置	-----	51
サービス資料	-----	52
主要諸元	-----	52
標準付属品	-----	53
主な消耗部品一覧表	-----	53
注文部品の紹介	-----	53

安全のポイント

本章では、乗用管理機械を効率よく安全にお使いいただくために、必ず守っていただきたい事項を説明しております。十分に熟読して、安全な作業を行なってください。

公道走行の禁止

この乗用管理機は、道路運送車両法の保安基準に適合していませんので、法令により公道は走行できません。

従って、移動するときはトラックなどで輸送してください。

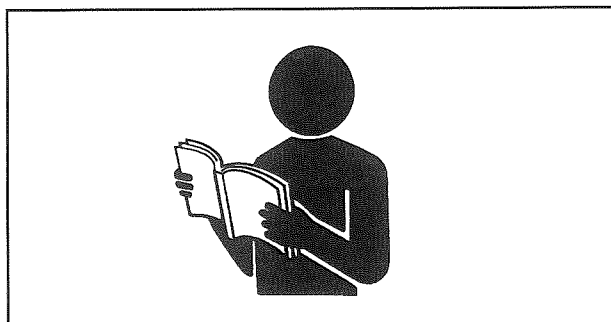
トラックの荷台から乗用管理機が、幅方向にはみ出した状態で運搬すると、違法行為となりますので注意してください。

安全な作業をするために

■運転者の条件

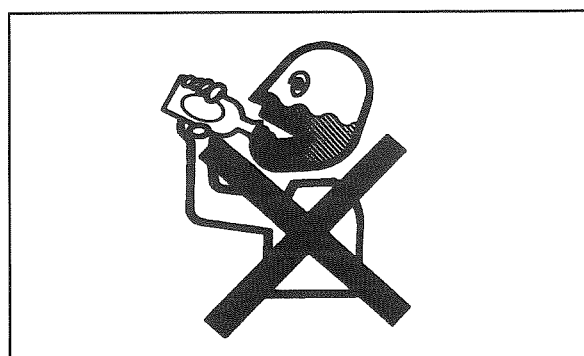
(1) はじめに

この『取扱説明書』をよく読むことから始めてください。これが安全に快適に作業するための第一歩です。



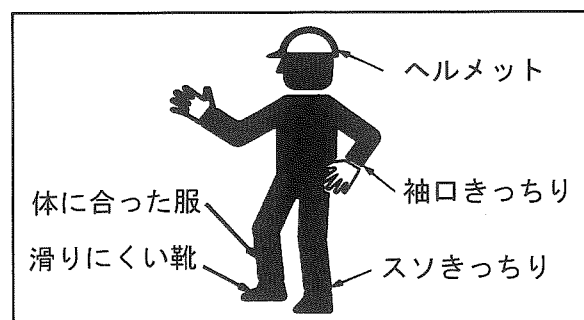
(2) 体調について

- ① 飲酒時や過労ぎみのときは作業を行なってはいけません。このようなときに作業を行なうと、誤操作などで思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。作業を行なうときは、必ず心身とも健康な状態で行なってください。
- ② 妊娠している人、18才未満の人は運転しないでください。
- ③ 初めて運転する人は、操作に慣れるまで低速で運転してください。



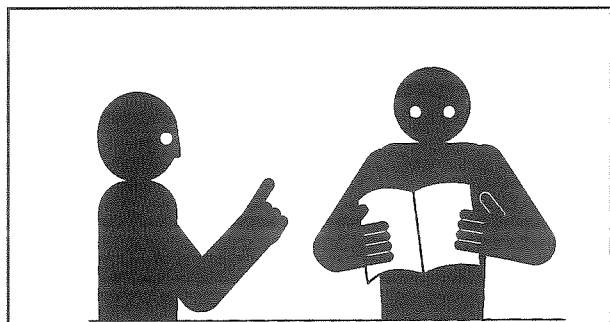
(3) 服装について

作業にあったキチンとした作業着を着用してください。だぶついた服装は、回転部に巻き込まれやすく危険です。ヘルメット・滑りにくい靴を着用し、必要に応じて安全靴・保護メガネ・手袋などを着用してください。



■人に機械を貸すときは

乗用管理機を人に貸すときは、取り扱いの方法をよく説明し使用前に取扱説明書を熟読するように指導してください。借りた人が乗用管理機の運転に不慣れなため、思わぬ事故を引き起こすことがあります。



■作業を開始する前に

(1) 無理のない作業計画で

無理のないゆとりある作業計画を立てましょう。無理な作業計画は、あせりなどから思わぬ事故を引き起こすことがあります。

(2) 日常点検について

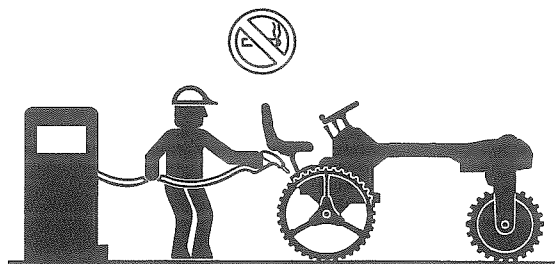
作業する前に、この取扱説明書を参考に必要な点検・注油は必ず行なってください。特にブレーキおよび主変速レバーの点検は忘れないでください。点検を怠ると、ブレーキの効きが悪かったり主変速レバーの操作が効かなかったりして走行中や作業中の思わぬ事故につながります。

(3) 安全カバー類の装着確認

乗用管理機を運転する前に、安全カバー類が外れたままになっていないか確認しましょう。外れたまま作業を行なうと回転部や過熱部がむきだしになり、傷害事故の原因になります。

(4) 燃料補給時は火気厳禁

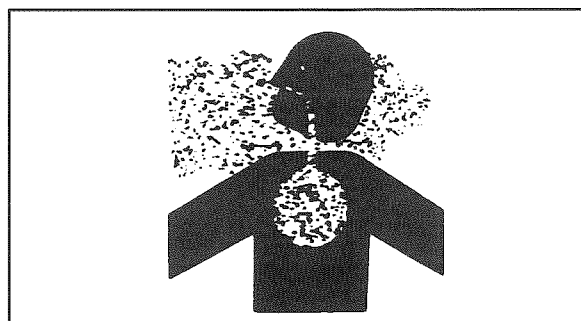
燃料を補給するときエンジンは必ず停止し、くわえタバコなどは絶対にしないでください。乗用管理機の周囲に火の気を近づけず、火気厳禁で行なってください。守らなかった場合、火災の原因になります。



■エンジンの始動と発進

(1) 室内では十分に換気を

室内でエンジンを始動するときは、窓や戸を開けて換気を充分に行なってください。換気を怠ると、排気ガス中毒を起こし大変危険です。

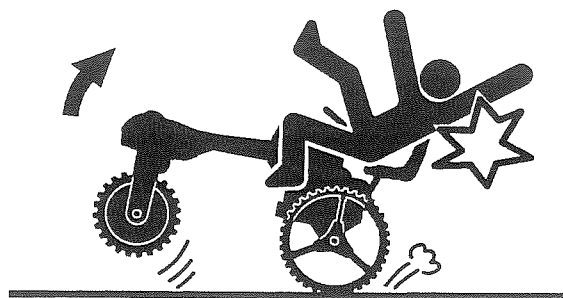


(2) エンジンの始動は周囲を確認してから

- ① エンジンを始動するときは、主変速レバーや副変速レバー、その他のレバーの位置と周囲の安全を確認してから行なってください。特に子供には充分注意してください。確認を怠ると、傷害事故を引き起こす恐れがあります。
- ② エンジンを始動するときは、エンジンやマフラー等の上や周囲に、燃えやすいものがないことを充分確認してください。確認を怠ると、火災の原因になります。

(3) 急発進は危険

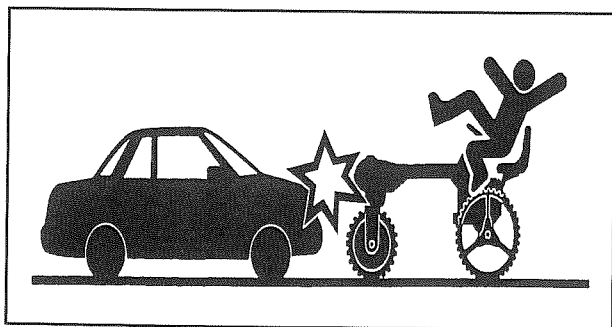
発進するときは周囲の安全を確認して、ゆっくり発進してください。急発進すると思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。



■移動するときの注意

(1) 一般道路での自走禁止

この乗用管理機は、道路運送車両法の保安基準に適合していませんので、法令により公道は走行できません。ほ場への移動は、必ずトラック等のにせて運搬してください。



(2) 正しい運転姿勢で

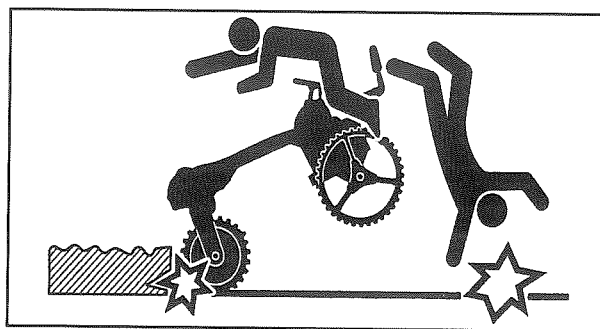
ハンドルやレバー、ペダルは正しく操作し、わき見運転や片手運転をしてはいけません。接触事故や転落事故を引き起こす原因となります。

(3) ほ場の外でのブレーキの使いかた

ほ場の外でブレーキを使う場合、急停止は大変危険です。必ず主変速レバーを「中立」位置に戻してからブレーキペダルを踏み込んでください。

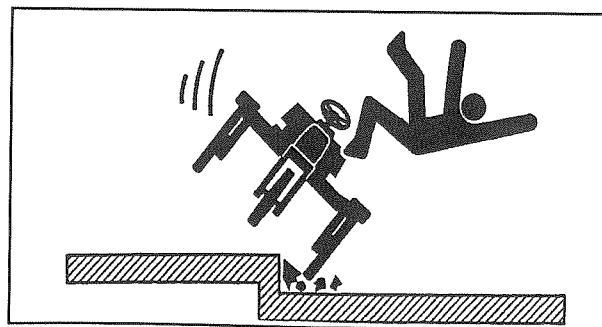
(4) 同乗禁止

どのような場合でも絶対に運転者以外の人を乗せないでください。転落事故を引き起こす原因となります。



(5) ゆっくり移動

- ① カーブ、曲り角では早めにスピードを落としてください。急旋回すると転倒事故につながり大変危険です。
- ② 凹凸の激しい場所・地面の軟弱な場所・傾斜地等での高速運転はしないでください。地面状況に応じた安全な速度で移動してください。これを怠ると衝突・転倒・転落事故を引き起こす恐れがあります。

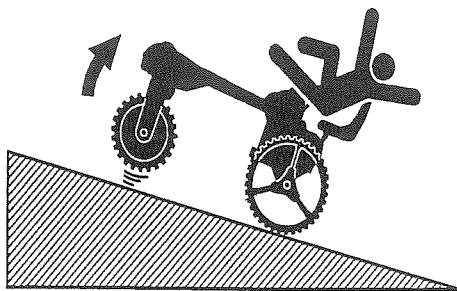


(6) 路肩に注意

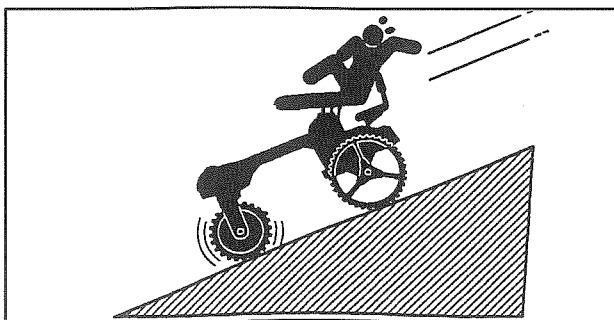
両側が傾斜している所を移動するときは、速度を落として充分注意して移動してください。路肩がくずれて転倒事故につながる恐れがあります。

(7) 坂道に注意

- ①坂の手前で一旦停止し、副変速レバーを「作業」に切替えてから、坂道を走行してください。急発進は禁物です。
- ②坂を上るときは低速でゆっくりと上り、下るときはエンジンプレーキを使用してゆっくりと下ります。ブレーキペダルの多用はブレーキを傷めるとともにスリップや転倒の原因となり大変危険です。
- ③停止するときにはブレーキペダルは踏み込まないで、必ず主変速レバーを操作してください。
- ④坂が急で前進で上ると前が浮き上がる恐れがある場合は、後進で上るようにしてください。

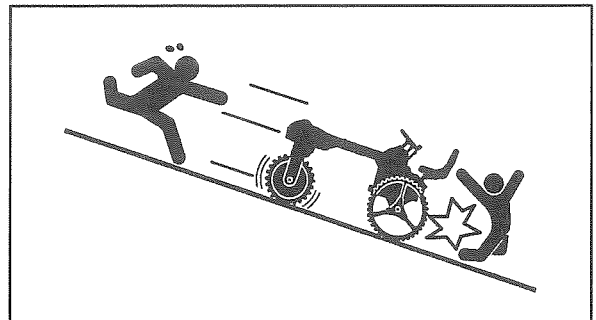


- ⑤坂の途中で副変速レバーを「PTO」にしないでください。転倒事故につながる恐れがあります。
- ⑥坂の途中で危険回避などのためにやむを得ず機械を停止させたいときは、ブレーキペダルをいっぱい踏み込んでください。ペダルの踏み込みが足りない場合は暴走する恐れがあり、大変危険です。



(8) 乗用管理機から離れるときは

- ①乗用管理機から離れるときはエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけて車輪止めをしてください。
- ②止める場所は広く平坦な地面の硬い場所を選んでください。乗用管理機が自然に動き出す恐れがあり、大変危険です。
- ③下に草やワラがある場所や、燃えやすい物の近くには乗用管理機を置かないでください。マフラー等の熱で発火する恐れがあり、火災の原因になります。



■夜間作業の禁止

この乗用管理機はライトを装備しておりません。夜間作業は危険なので帰り時間等を配慮し、作業は早めに切り上げてください。暗くなるまで作業をしていると、衝突・転倒・転落事故を引き起こす恐れがあります。

■移動・運搬時の注意

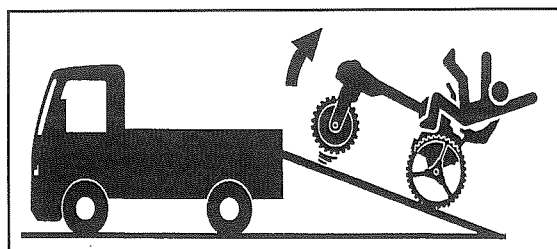
(1) トラックへの積み降ろし

- ①積み降ろし作業を行なうときは、トラックのエンジンを止めて、駐車ブレーキをかけ、車輪止めをして行なってください。これを怠ると積み降ろし時、トラックが動いて転落事故を引き起こす恐れがあります。
- ②積み降ろし作業は、誘導者を付けて周囲の安全を充分確認して行なってください。また乗用管理機の直前や直後には絶対に立たないでください。傷害事故の原因になり、大変危険です。

- ③アユミ板は基準以上のものを使用し、乗用管理機の重量でアユミ板が傾かない場所を選んでください。

＜アユミ板の基準＞
○長さ：車の荷台の高さの4倍以上
○幅：30cm以上
○数量：3枚
○強度：1枚の強度が500kg以上の質量に耐えるもの
○すべり止めのあるもの

- ④アユミ板のフックは荷台に段差がないようにまた、ずれないように確実にかけてください。
- ⑤アユミ板からの脱輪に注意してください。
- ⑥前進でアユミ板を上ると大変危険です。必ず後進で積み込み、前進で降ろしてください。これを怠ると転落事故の原因になり、大変危険です。



- ⑦副変速レバーを「作業」にし、主変速レバーでゆっくり操縦してください。積み降ろしは低速で行なってください。途中で絶対に副変速レバーを「PTO」にしないでください。これを怠ると転落事故の原因になり、大変危険です。
- ⑧途中で危険回避などのために緊急に機械を停止させたいときは、ブレーキペダルを素早くいっぱい踏んでください。
- ⑨万一に備えて乗用管理機の周囲には人を近づけないでください。

(2) 運搬するとき

- ①トラック等で運搬するときは、駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止し必ず乗用管理機をロープで荷台に固定してください。また運搬中は不必要な急発進・急ブレーキ・急ハンドルはしないでください。これを怠ると乗用管理機が転落する恐れがあります。
- ②長距離を運搬する場合は、安全のために途中でロープのゆるみ等を確認してください。
- ③ジャリ道や凹凸の激しい道はゆっくり走行してください。

■作業中の注意

気象条件などに注意して、作業実施の判断・作業方法や装備（服装）の選択に充分配慮してください。

(1) 作業中は、周囲の人に注意

（特に子供が近づくのは危険）

作業中は、作業員以外の人を乗用管理機に近づけてはいけません。乗用管理機自体や作業による飛散物等で傷害事故を引き起こす恐れがあり大変危険です。

(2) 作業開始時は、声をかけあって

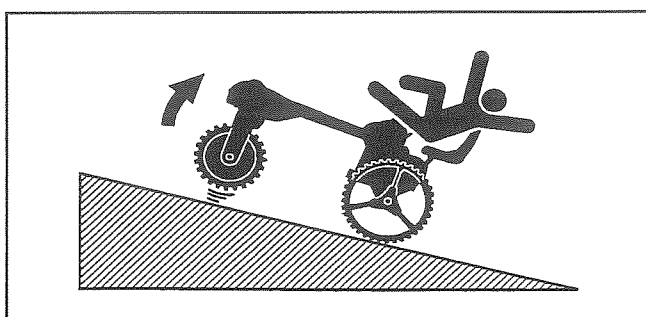
作業を開始するときは周囲の安全を確認し、特に補助者とともに作業するときは、声をかけあって行なってください。これを怠ると傷害事故の原因になり大変危険です。

(3) 畦越え時の注意

機械を畦に対して直角に向けて止め、副変速レバーを「作業」にし、主変速レバーを低速でゆっくり畦を越えてください。畦に対して斜めになったり、高速で畦越えを行なうとスリップや横転の原因となり、大変危険です。

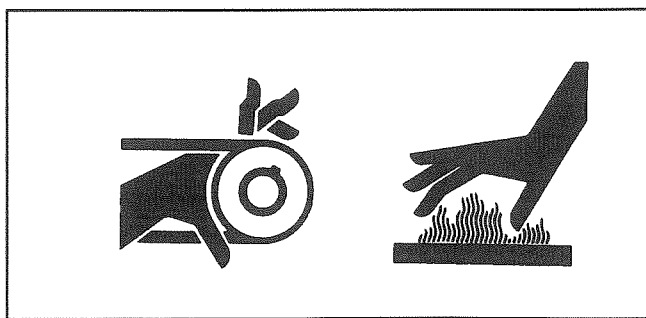
(4) アユミ板を使ってほ場の出入り

- ① 畦が高い所でのほ場の出入りには、必ずアユミ板を使用して後進で上ってください。使用しなかった場合、衝撃で乗用管理機を破損させたり、転倒することがあり大変危険です。
- ② 畦に対して機械を直角に止め、3枚のアユミ板が機械の車輪に合い、平行になっていることを確認してください。
- ③ ハンドルをまっすぐにして、ゆっくりと上ってください。このとき脱輪に注意してください。



(5) 回転部・過熱部には手を触れない

作業中は、作業部等の回転部やエンジン、マフラー等の過熱部などの危険な箇所には手を触れないでください。傷害事故の原因となり大変危険です。



■点検・整備時の注意

(1) 定期点検について

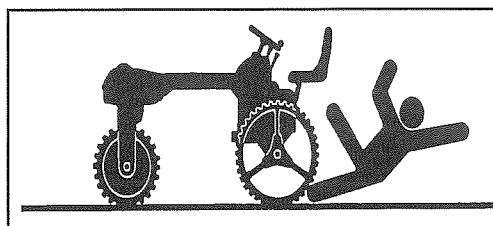
取扱説明書にしたがって定期点検をしてください。これは乗用管理機を長持ちさせるとともに、安全で効率的な作業を行なうために必要です。

(2) 点検・整備は明るく広い場所で

点検・整備するときは、明るく平坦な広い場所で行なってください。これを怠ると思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。

(3) 点検・整備時はエンジンを停止

点検・整備するときは必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけ、作業部をフックで固定して行ってください。これらを怠ると手や衣服が巻き込まれたり、はさまれたりして大変危険です。



(4) 点検・整備は適正な工具で

点検・整備を行なうときは、適正な工具を正しく使用して行ってください。これを怠ると、整備中の傷害事故や整備不良による思わぬ事故を引き起こし、大変危険です。

(5) 過熱部分は冷めてから

- ①エンジンを停止してすぐに点検・整備をしてはいけません。エンジンなどの過熱部分が、完全に冷えてから行なってください。これを怠るとやけどなどの原因になります。



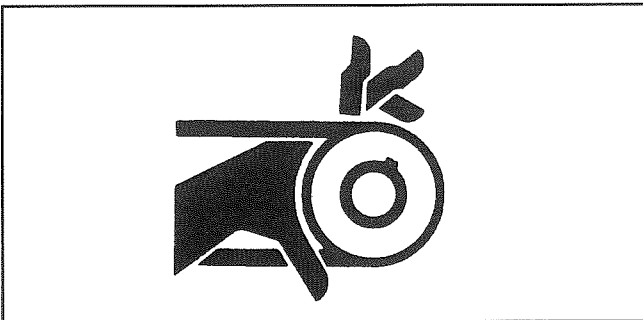
- ②点検・整備をするときは、マフラー等の過熱部分のゴミ・ホコリはきれいに取り除いておいてください。これを怠ると作業中に発火し、火災を引き起こす恐れがあります。

(6) 乗用管理機の改造は厳禁

指定以外のアタッチメントの取り付けや、改造は絶対にしないでください。乗用管理機の故障や事故の原因になり大変危険です。

(7) カバー類は元通りに

点検・整備で取り外したカバー類は、必ず元通りに取り付けてください。外したままエンジンを始動すると、回転部や過熱部がむきだしになり、傷害事故の原因になります。



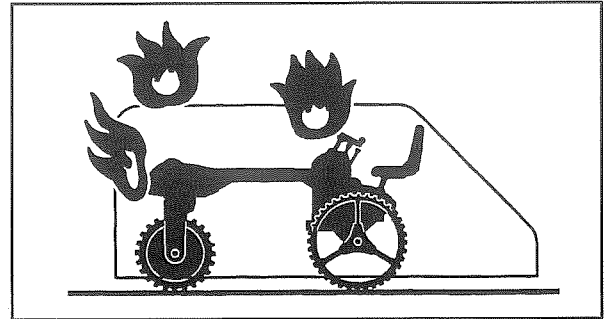
■保管時の注意

(1) 燃料の抜き取り

長期格納する場合は、燃料タンクやキャブレター内の燃料を抜き取っておいてください。燃料が変質し、乗用管理機の故障の原因になるばかりでなく、引火などで火災の原因にもなり大変危険です。

(2) シートカバーは機械が冷えてから

作業が終了してシートカバー等を乗用管理機にかけるときは、過熱部分が完全に冷えてから行なってください。熱いうちにシートカバーをかけると火災の原因になり大変危険です。



(3) バッテリーケーブルを外す

長期格納する場合は、バッテリーケーブルを外しておいてください。これを怠ると、ネズミ等がケーブルをかじってケーブルがショートし、火災の原因になり大変危険です。

■廃棄物の取り扱い注意

(1) 廃棄物のたれ流し禁止

機械から廃油を抜く場合は、容器に受けてください。地面へのたれ流しや河川・湖沼・海洋への投棄はしないでください。

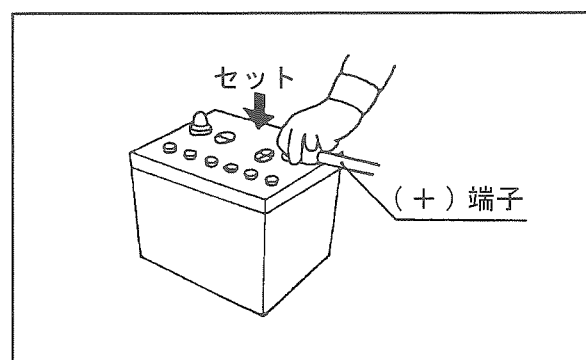
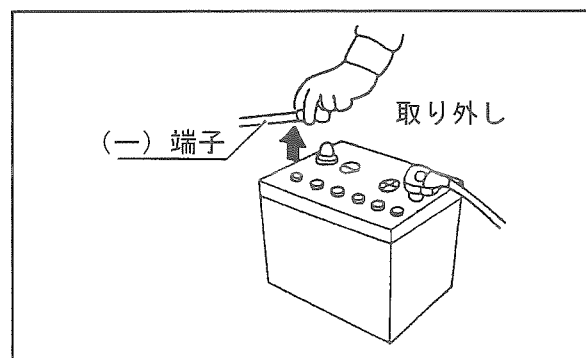
(2) 廃棄・焼却時は相談を

廃油・燃料・フィルター・ゴム類・その他の有害物を廃棄または焼却するときは、購入先または産業廃棄物処理業者などに相談して、所定の規則にしたがって処理してください。

電装関係を取り扱う時は

(1) 電気配線点検時の注意事項

- ①電気配線の点検は、必ずエンジンを停止して行なってください。エンジンをかけた状態での点検は、手や衣服が回転部に巻き込まれたりして大変危険です。
- ②接続部の点検は、メインスイッチを「切」にし、バッテリーの(－)側端子を外して行なってください。これを怠ると火花がとんだり、感電したり思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。
- ③配線の端子や接続部のゆるみ、および配線の損傷は電気部品の性能を損なうだけでなく、ショート・漏電の原因となり火災事故になる恐れがあり大変危険です。傷んだ配線は交換・修理してください。



(2) バッテリー取り扱い時の注意事項

- ①ショートやスパークさせたり、たばこ等の火気を近付けないでください。また充電は風通しのよい所で行なってください。これを怠ると引火爆発することがあり大変危険です。
- ②バッテリー液（電解液）は希硫酸で劇毒物です。バッテリー液を体や衣服につけないようにしてください。失明ややけどをすることがあり大変危険です。もし目・皮膚・服についた時は、ただちに大量の水で洗ってください。なお目に入った時は、水洗い後、医師の治療を受けてください。
- ③バッテリーの着脱及び点検をする時はエンジンを停止し、メインスイッチを「切」にしてください。これを怠ると電気部品を損傷したり、思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。
- ④バッテリーケーブルを外す時は(－)側端子を先に外します。バッテリーケーブルを取り付ける時は(－)側端子を最後に取り付けます。これを怠るとショートして火花が飛ぶなどして危険です。

(3) ブースタケーブル使用時の注意事項

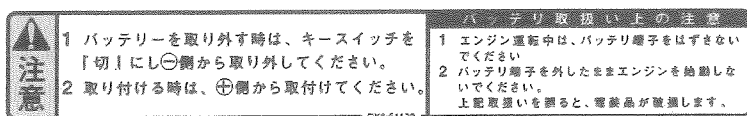
ブースタケーブル使用時には、危険のないように取り扱ってください。

- ①バッテリーの補水キャップを取り外してから接続してください。補水キャップが取り外してあれば、万一引火しても爆発力が低下しますので、被害は少なくなります。
- ②ブースタケーブル接続前には、エンジンを停止してください。これを怠ると思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。
- ③ブースタケーブルは、できるだけ通電容量の大きいものを選んで使用してください。通電容量が小さすぎると、ブースタケーブルが熱をもったり焼損したりして危険です。

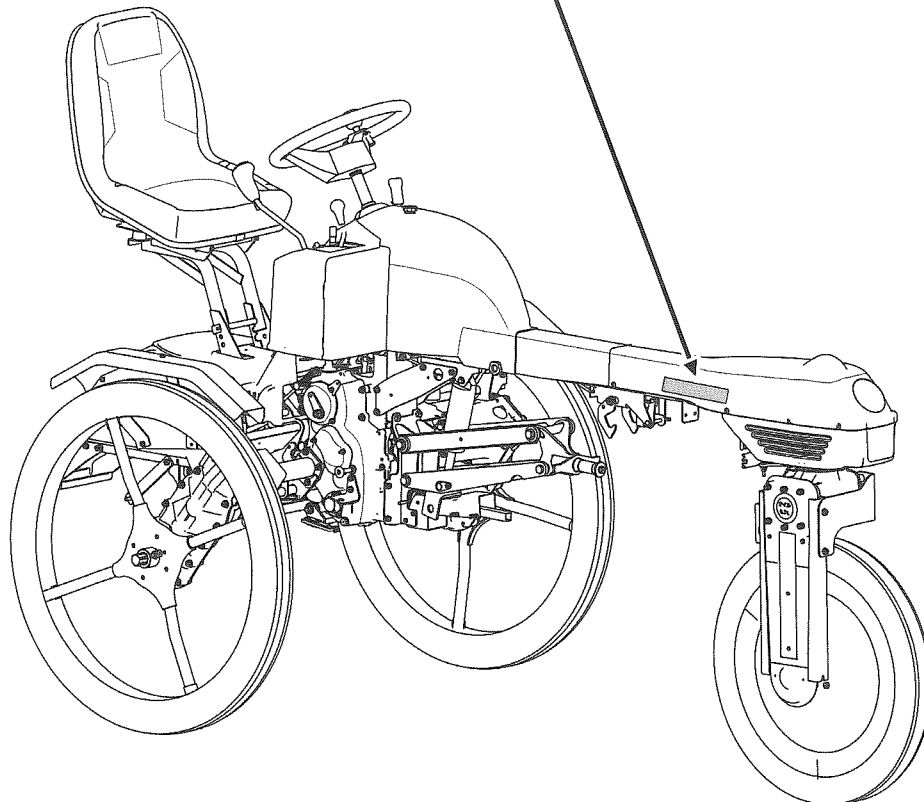
安全表示ラベルについて

- 乗用管理機には、安全に作業していただくため、安全表示ラベルが貼付してあります。必ずよく読んで、これらの指示にしたがってください。
- 安全表示ラベルが破損したり、はがれたり、読めなくなった場合は、購入先に連絡し必ず所定の位置に貼ってください。
- 泥などがついた場合は、きれいにふきとり、いつでも読めるようにしてください。
- 安全表示ラベルが貼付してある部品を交換する場合、同時に安全表示ラベルも購入先にご注文ください。

安全表示ラベル貼付位置



バッテリー警告マーク
RX6-51130



安全表示ラベル貼付位置

警告

坂道を走行する時は、『作業速』にして、後進で上り、前進で下ってください。これを怠ると転倒事故の原因になり、大変危険です。

KE3-62112

注意

運転操作をする前に、必ず取扱説明書をよくお読みください。

- この機械は一般道路の走行はできません。トラック等に載せて運搬してください。
- 燃料補給する時は、エンジンを停止し、冷却状態で行ってください。
- エンジンを始動する時は、周囲の安全を確認し、HSTレバーを『中立』で行ってください。
- トラックへ積み・降ろす時は、強度・幅・長さの十分あるスリッパないアユミを使用してください。
- ほ場へ出入りする時は、スピードを落としあぜに直角に走行してください。
- 機械から離れる時はエンジンを停止し駐車ブレーキをかけてください。
- 点検調整する時は、安全な場所のでエンジンを止め、権限部または作業部をフックで固定してください。
- 補助者と共同作業を行う時は、合図をし安全を確認してください。

RXD4-62112(1)

警告

- 前進での乗車駐越え・積み込み禁止。
- 傾斜地を下がる時は、『作業速』でエンジンブレーキをかけて低速走行し、足ブレーキの多用はさけてください。

RS4-81022(1)

運転操作警告マーク
RXD4-62112(1)

駐越え乗車警告マーク
RS4-81022(1)

駐越え乗車警告マーク
KE3-62112

危険

引火のおそれがあります。火を近づけないでください。

- 可燃物にはガソリンを使用しないでください。
- 給油中は必ずエンジンを止めてください。

火気厳禁 警告

RXD4-62113

火気厳禁警告マーク
RXD4-62113

バッテリー警告マーク
(バッテリー付属品)

火気厳禁 火気厳禁 火気厳禁 火気厳禁 火気厳禁

水蒸気発生 取扱いを誤ると引火燃焼の恐れあり
 工具等でショートやスパークをさせない。充電は風通しのよい所で行う。
 プラスターケーブルの使用は取扱説明書に従う。
 バッテリー液（硫酸）で失明ややけどの恐れあり
 液がつかないように多量の水で洗い、目の場合は医師の名前を告げる。
 燃焼の恐れあり。液面はLOWER以下で使用しない。
 液漏れの恐れあり。UPPER以上に雨水しない。

12V
1735

マフラー警告マーク
X4-8123

警告

やけどをするのでマフラーにさわらないでください。

X4-8123

(向こう側)
ボンネットカバー警告マーク
RX6-51128

注意

カバーをはずしたまま、エンジンを始動しないでください。

RX6-51128

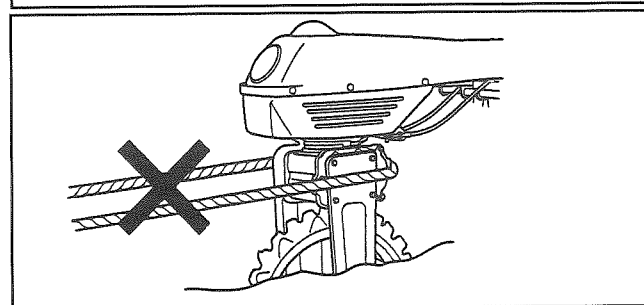
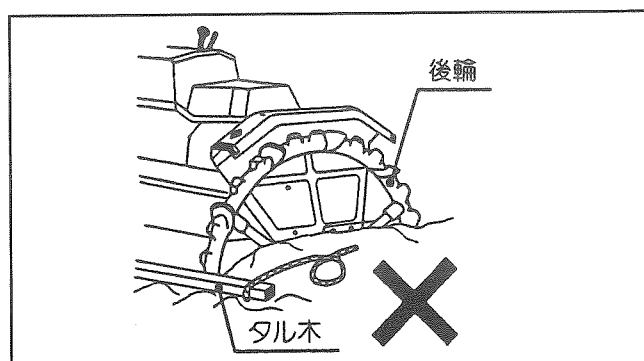
使用上のポイント

乗用管理機が使用できる耕盤の深さは 40cm までです。

泥炭地、基盤整備田等で本乗用管理機が沈むような耕盤の不安定な悪条件のほ場では、乗用管理機を使用できなかつたり、早期破損の原因となつたりします。また、本乗用管理機の特徴をよく知って、それにできるだけ合わせたほ場、機械の準備をしていただくことが大切です。

■ 湿田での脱出のしかた

- (1) 車輪に負担をかけないように、油圧レバーを「下」にして作業部が常に表土に下りている状態にします。
- (2) 前輪の前の泥をできるだけ除き、ジャッキアップして前輪の下にアユミ板をひきます。
- (3) 主変速レバーを「低」から「高」繰り返し操作して、ゆっくりと自力で脱出させてください。



重要

- 深いほ場で沈んで、田植機から異音がしたり、車輪がスリップして前進できなくなった場合は、絶対に田植機をトラクター等で引っ張らないでください。田植機が破損する恐れがあります。
- 主変速レバーを 130N (13kgf) 以上の力で操作しないでください。HST 本体への過負荷 (寿命短命化) 防止の為、構成部品が変形します。変形すると中立位置でも機体が動く恐れがあります。

保証とサービスについて

■商品の保証

この商品には、保証書が添付されています。詳しくは保証書をご覧ください。

■サービスネット



警告

機械の改造は危険ですので、絶対にしないでください。改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は、メーカー保証の対象外になるのでご注意ください。

ご使用中の故障や不審な点およびサービスに関するご用命は、購入先にお気軽にご相談ください。

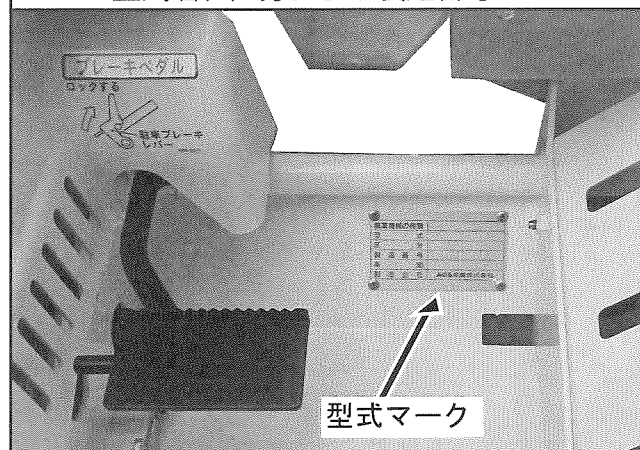
その際 (1) 型式名、区分および製造番号
(2) エンジン番号

をあわせてご連絡ください。

(型式マーク)

農業機械の種類	
型 式	
区 分	
製 造 番 号	

型式名、区分および製造番号



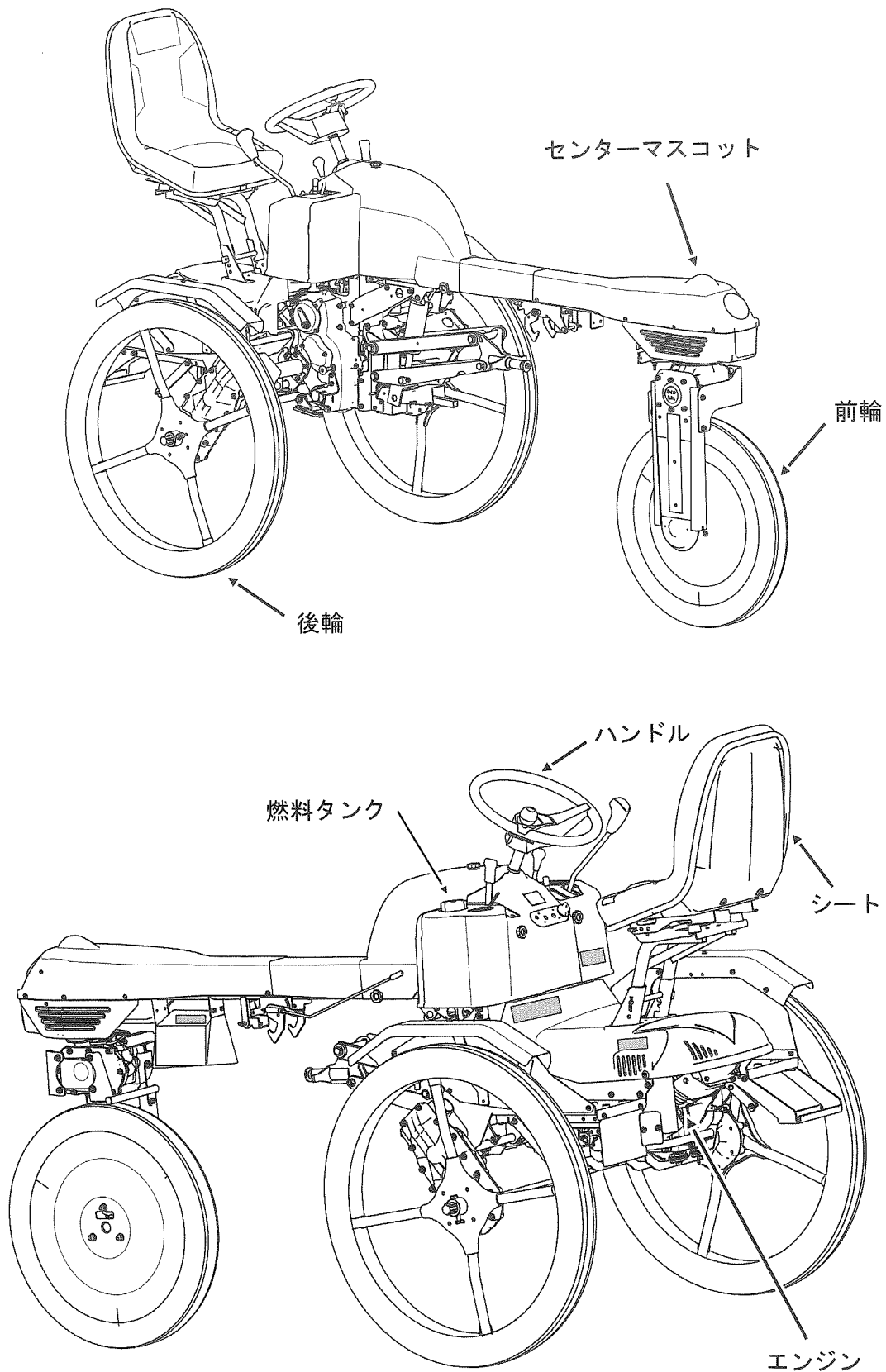
■補修用部品供給年限について

この商品の補修用部品の供給年限(期間)は、製造打ち切り後9年といたします。ただし、供給年限内であっても、特殊部品につきましては、納期などについてご相談させていただく場合もあります。

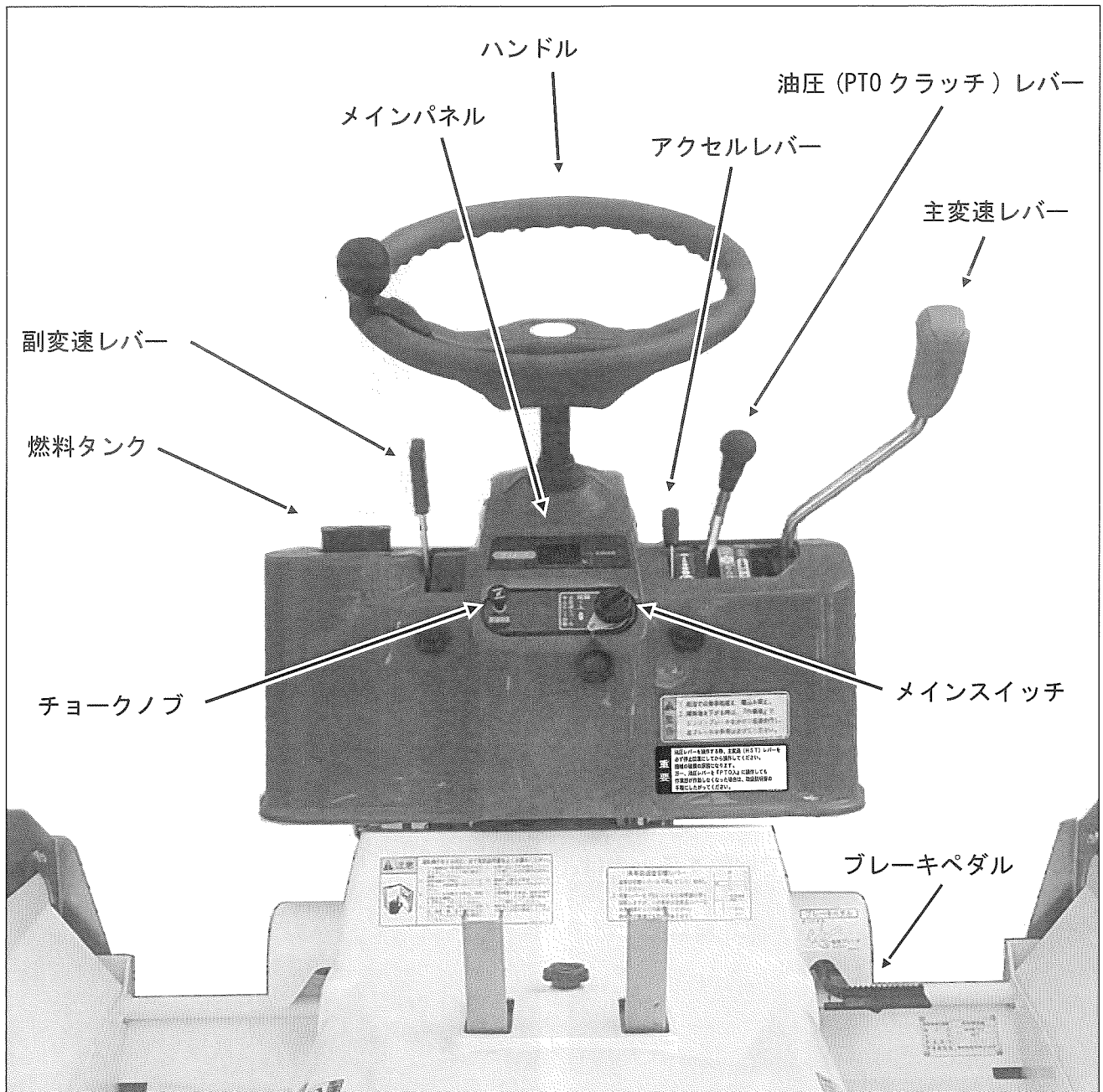
補修用部品の供給は、原則的には上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

各部の名称と取り扱い

各部の名称



各部の名称と取り扱い



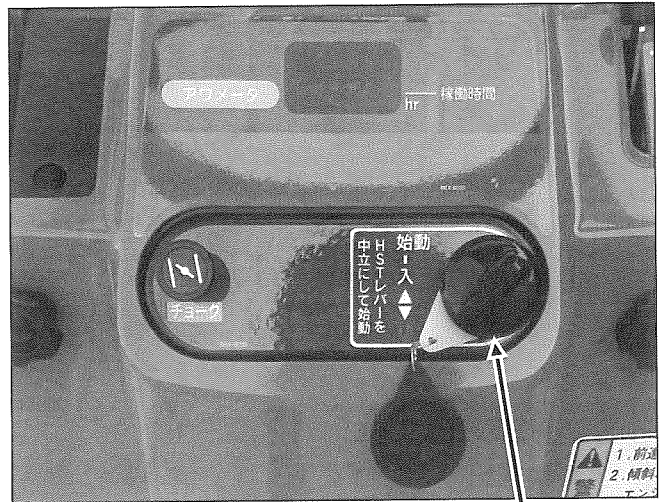
各部の取り扱い

■メインスイッチ

- 切……………エンジンが停止します。
電装品は作動しません。
キースイッチの抜き差しができます。
- 入……………エンジンが回転中の位置です。
電装品が作動します。
- 始動………主変速レバーを「中立」にして
エンジン始動。
手を離せば「入」にもどります。

重要

- キースイッチを「入」にすると、「ピピピッ」と鳴りますが、これは転倒予防警報装置の電源が正常に入った時に鳴る音です。鳴らない場合は、購入先に連絡してください。
- エンジン回転中はメインスイッチを「始動」位置に絶対に回さないでください。
- スタータの作動は1回5秒程度とし、始動しないときは30秒程度休止してから再び操作をくり返してください。



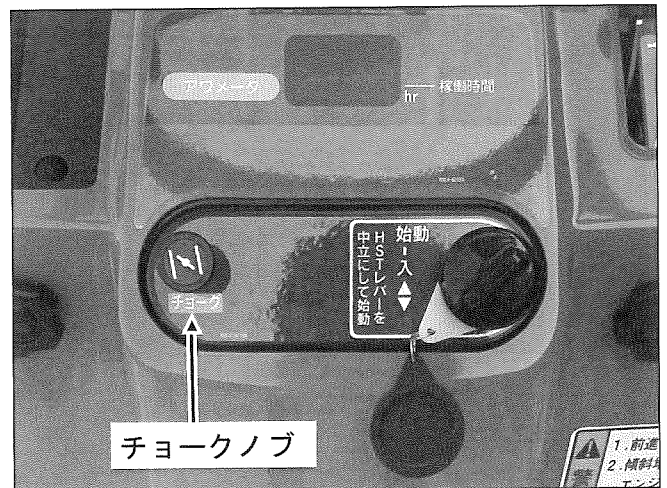
メインスイッチ

■チョークノブ

エンジンが冷えている状態で始動するときは、チョークノブをいっぱいに引きます。エンジン始動後は、すぐにチョークノブを戻してください。

重要

- 始動時以外は使用しないでください。



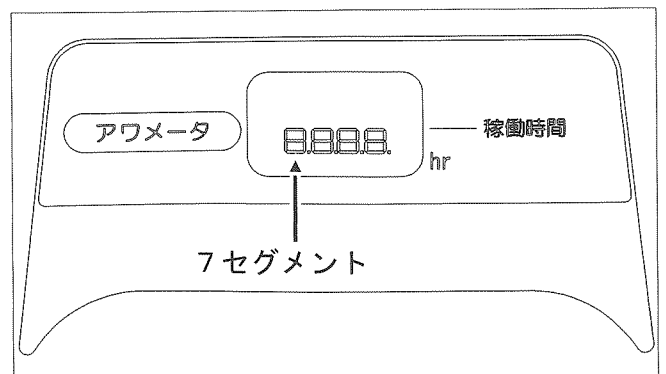
チョークノブ

■メインパネル

- (1) メインスイッチを「入」にすると、7セグメントが1秒間、全点灯します。
- (2) その後、アワメータとして現在までの積算稼働時間(エンジン稼働時間)を表示します。このとき、4桁目(右端)は、数字を6倍して【分】単位の表示となります。

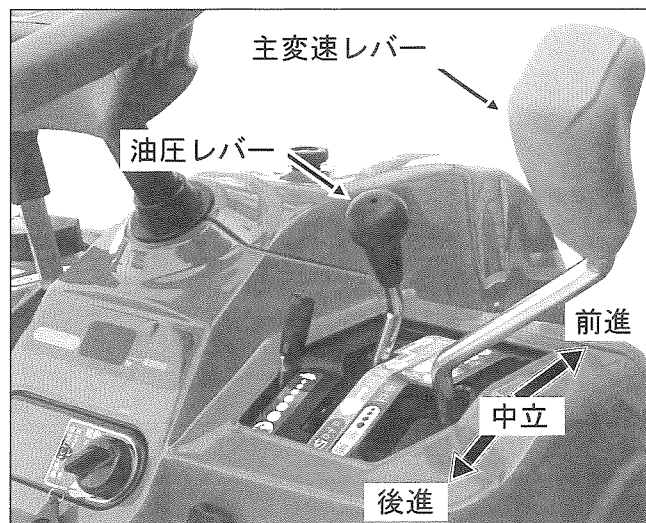
【例】13.6……………13時間36分

また、999.9時間以上は【分】単位の表示がなくなり、1000時間から9999時間までの表示となります。



■主変速レバー

- (1) 前進・後進・停止（中立）の操作及び走行速度の調節を行なうレバーです。
- (2) 走行速度及びエンジン回転数は、主変速レバーを動かす量に応じて変わります。
- (3) 油圧レバーが「PTO入」位置で、主変速レバーを「中立」位置より「後進」側に操作するとバックリフト機能がはたらきます。バックリフト機能により油圧レバーが「上」位置に動き、作業部が上昇するとともに、PTOクラッチは「切」になります。
- (4) 作業部がいつばいまで上昇すると、油圧レバーは自動的に「止」になります。
- (5) 通常の走行を停止するときは、主変速レバーの操作で行なってください。



重要

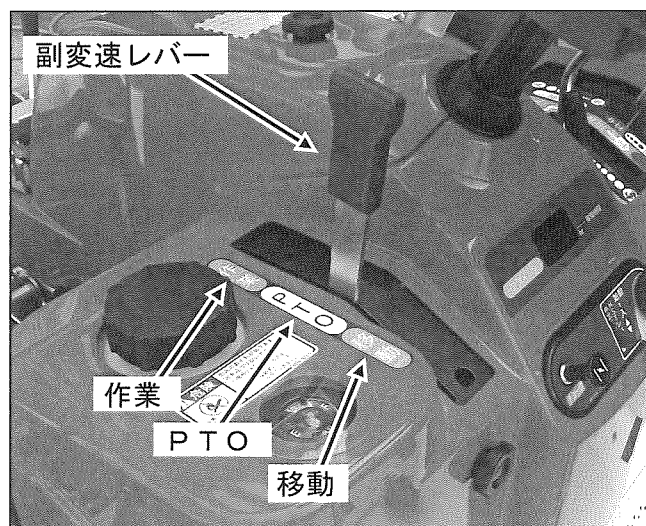
- 主変速レバーが「中立」位置以外にあるときは、エンジンは始動しません。
- 主変速レバーは、エンジンに大きな負荷のかかる条件では高速側から自動的に低速側に戻る場合があります。
- 主変速レバーを130N（13kgf）以上の力で操作しないでください。HST本体への過負荷（寿命短命化）防止の為、構成部品が変形します。変形すると中立位置でも機体が動く恐れがあります。
- 作業部が下降している状態でも、油圧レバーが「止」の位置にあるとバックリフトは機能しません。

■副変速レバー

- (1) 「移動」・「PTO」・「作業」位置の切替えを行なうレバーです。
- (2) 作業……作業時・低速移動時に使用します。
PTO……作業部のみ動きます。
移動……高速移動時に使用します。

注意



乗用管理機から離れるときは副変速レバーを「PTO」にし、駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止してください。これを怠ると乗用管理機が自然に動き出し大変危険です。

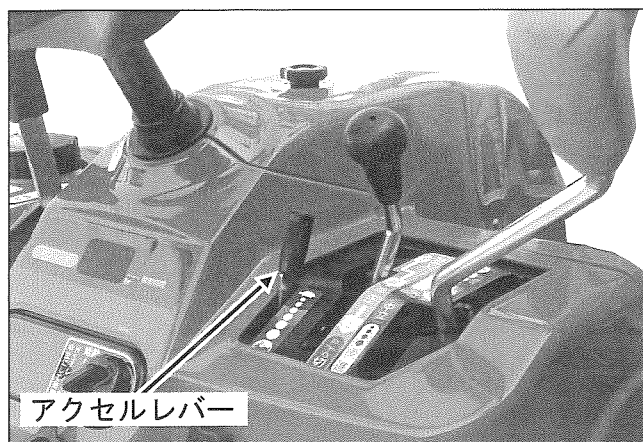


重要

- 副変速レバーの操作は、主変速レバーを「中立」にし、乗用管理機が完全に停止してから行ってください。走行中に操作するとミッションの損傷につながります。
- 変速機の構造上、副変速レバーの切替えができない場合があります。切替わらない場合は、エンジン始動中に主変速レバーを前方または後方に操作したのち「中立」に戻し、再度副変速レバーの切替えを行なってください。

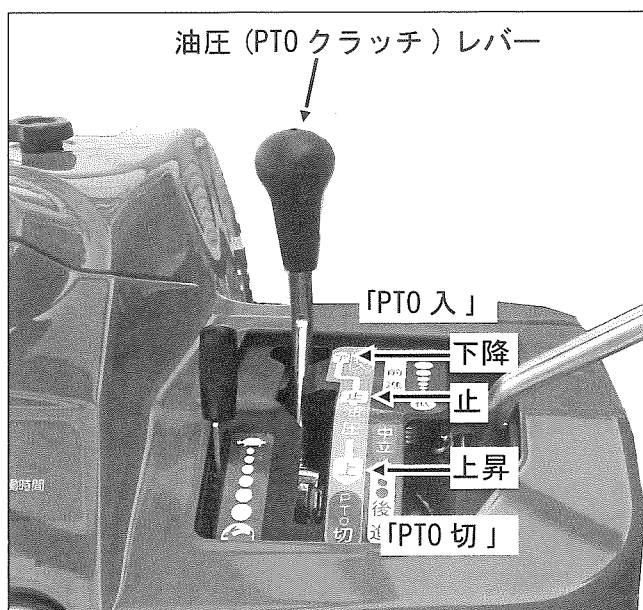
■アクセルレバー

- (1) アクセルレバーを後方に引く ([] 方向) とエンジン回転数が上がり、前方に押す ([] 方向) とエンジン回転数が下がります。
- (2) ほ場条件によるエンジン負荷に応じて適当な位置に固定して使用します。



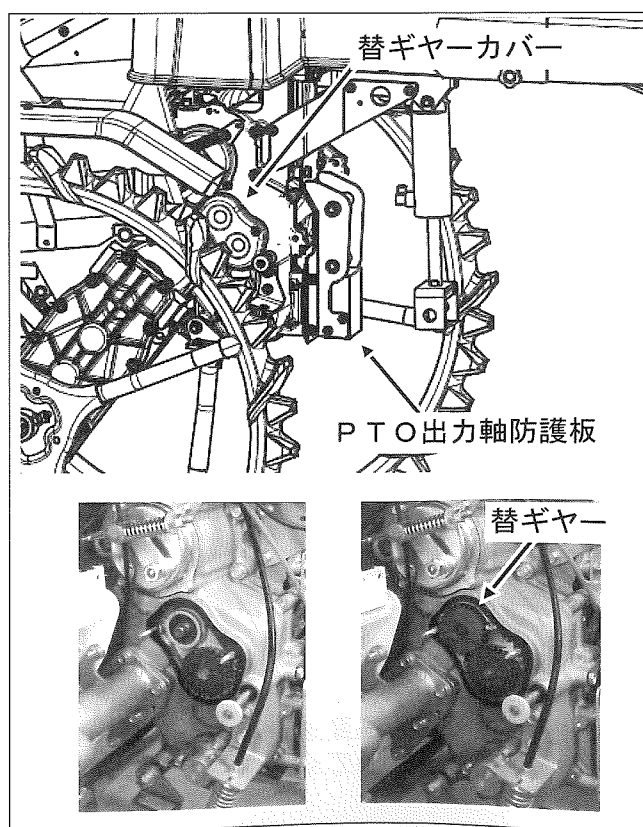
■油圧 (PTO クラッチ) レバー

- (1) 作業部の上昇・下降と作業部への動力伝達の断続を行なうレバーです。
- (2) 油圧レバーを「下」にすると作業部が下降し、さらに押し込むと PTO クラッチが「入」になります。
- (3) 油圧レバーを「上」にすると、作業部が上昇するとともに、PTO クラッチは「切」になります。作業部がいっぱいまで上昇すると、油圧レバーは自動的に「止」になります。
- (4) 作業部の上昇中に油圧レバーを「止」にすると、作業部を任意の高さで止められます。



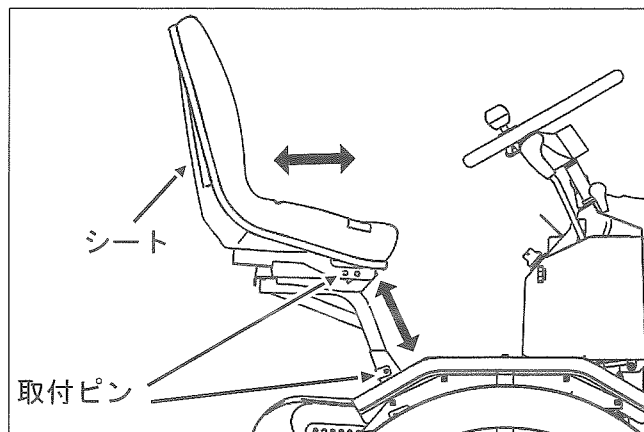
重要

- 走行部のみの出荷状態では PTO 軸は回転しません。PTO 軸を回転させる場合は替ギヤカバーを外して、替ギヤを装着してください。また、PTO 軸が回転する状態の場合は、オプション部品の PTO 出力軸防護板を取り付けてください。
- 替ギヤは上に 6 番、下に 5 番を使用してください。指定以外の替ギヤを使用すると、機械が破損します。
- 油圧レバーを「止」にしておいても、作業部がわずかずつ下降することがありますので取り扱いにご注意ください。
- バックリフト機能がはたらくと、油圧レバーが自動的に「PTO 入」位置から「PTO 切」位置に動きますので、取り扱いにご注意ください。



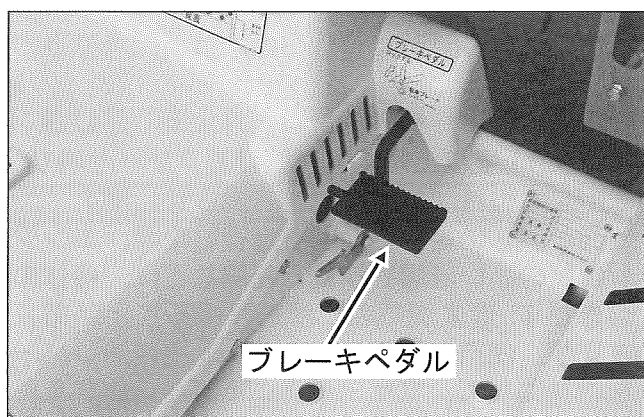
■シート

作業しやすい位置になるように、シートの取付ピン位置を変更して、前後・高さ方向に調節してください。



■ブレーキペダル

踏み込むとブレーキがかかります。通常の走行停止をするときは主変速レバーの操作で行ない、緊急停止時に使用します。



■駐車ブレーキレバー

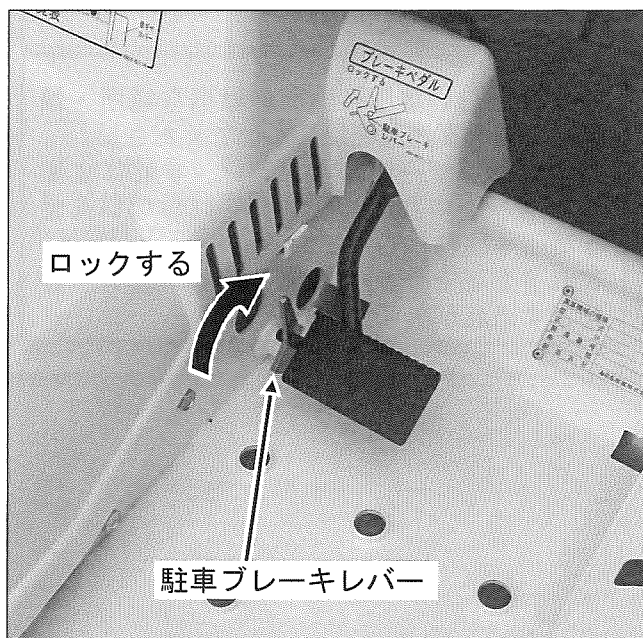
⚠ 注意

駐車時には必ず駐車ブレーキレバーをロックしてください。
これを怠ると乗用管理機が自然に動き出し大変危険です。

- (1) 乗用管理機を駐車しておくためのレバーです。
- (2) ブレーキペダルを踏み込み、駐車ブレーキレバーでロックします。
- (3) ロック状態でブレーキペダルを踏み込むと、ロックが解除されます。

重要

- 駐車ブレーキレバーをかけたまま走行すると乗用管理機の故障の原因となります。

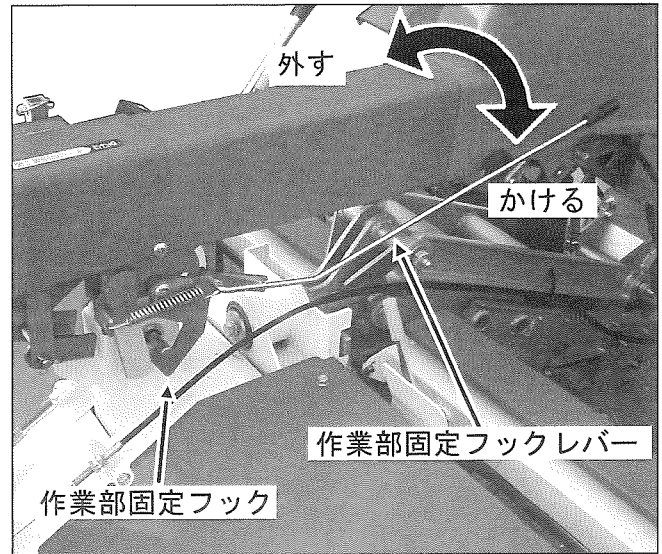


■作業部固定フックレバー

- (1) 移動時・点検整備時等に作業部が下降しないようフックをかけます。
- (2) 作業時は作業部固定フックレバーを「外す」方向へ操作します。

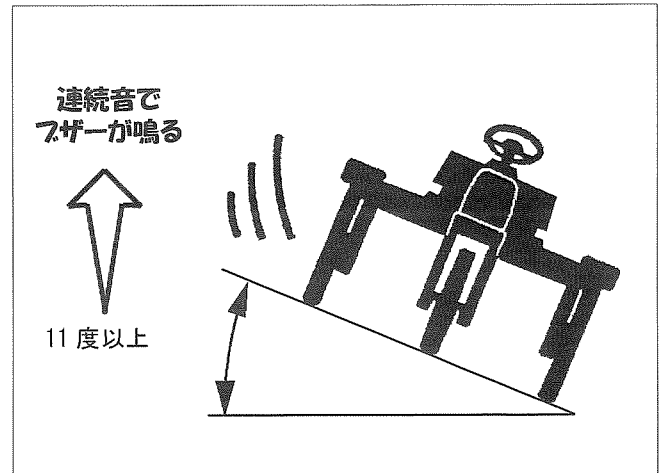
重要

- 作業部を作業部固定フックにかけた後は、油圧レバーを「止」にしてください。



■転倒予防警報装置

機体が 11 度以上傾くと連続音でブザーが鳴り、転倒する恐れがあることをお知らせします。凹凸が激しい場所・地面を走行した際、エンジン負荷の高い場所で作業した際などに、機体の傾きが 11 度未満でもブザーが鳴ることがありますが、使用上問題ありません。主変速レバーを中立にして、ブザーが止まってから作業を再開してください。



警告

凹凸の激しい場所・地面の軟弱な場所・傾斜地等での高速運転はしないでください。連続音でブザーが鳴った時は、すぐに主変速レバーを中立にし、本機を傾かない安全な場所へ移動してください。これを怠ると衝突・転倒・転落事故を引き起こす恐れがあります。

作業前点検

故障を未然に防ぐには、乗用管理機の状態をよく知っておくことが大切です。
作業前点検は毎日欠かさず行なってください。

危険

- くわえタバコなどはせず火気厳禁で行なってください。

警告

- (1) 乗用管理機を平たんな広い場所に置いてください。
- (2) エンジンを停止してください。
- (3) 駐車ブレーキをかけてください。
- (4) エンジンなどの過熱部分を充分冷やしてください。
- (5) 作業にあったキチンとした作業着を着用してください。だぶついた服装は回転部に巻き込まれやすく危険です。
- (6) ヘルメット・滑りにくい靴を着用し、必要に応じて、安全靴・保護メガネ・手袋などを着用してください。

注意

- (1) 作業部を下ろすか、作業部固定フックレバーで固定してください。
- (2) 取り外したカバー類は、点検後に必ず取り付けてください。

給油・注油箇所の点検と補給

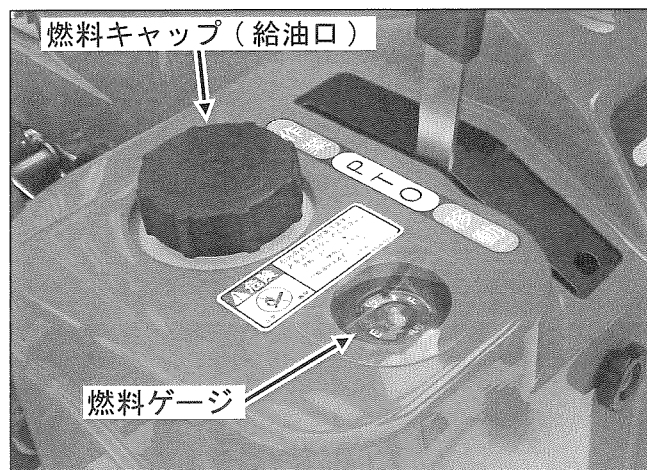
危険

- (1) 燃料給油時には引火の恐れがありますので、火気を近付けしないでください。
- (2) 燃料を補給するときは、エンジンを停止し、過熱部分が充分冷えてから行ってください。燃料のつぎこぼしなどにより火災の原因になり大変危険です。
- (3) 燃料をつぎこぼしたときは、きれいにふき取ってください。エンジンを作動するとき、引火し火災の原因となり大変危険です。
- (4) ガソリンの保管は消防法で定められている金属製のガソリン専用容器を使用してください。

■燃料（無鉛ガソリン）の給油

- (1) 燃料ゲージの指針が「E」に近づいたら早めに燃料を補給してください。
- (2) 燃料を給油するときは、平たんな場所でエンジンを止め、燃料キャップを外して、必ず燃料こしあみを通して無鉛ガソリンを給油します。

燃料の種類	燃料タンクの容量
自動車用無鉛ガソリン	約 6L



重要

- 燃料は自動車用無鉛ガソリンを必ず使用してください。また、下記のような燃料は使用しないでください。エンジンがかからなかったり、エンジンの不調や故障の原因になります。
 - 燃料タンク内に1ヶ月以上放置した燃料
 - 樹脂製タンクに長期間保管した燃料
 - ゴミや水など異物の混ざった燃料
 - 変色のひどい燃料
 - くさった古い燃料
- 1ヶ月エンジンを始動しないと、燃料は変質し、エンジントラブルの原因になります。
- 給油口の燃料こしあみは外さないでください。燃料タンクにゴミなどの異物が混入するとエンジンの故障の原因となります。

■エンジンオイルの点検

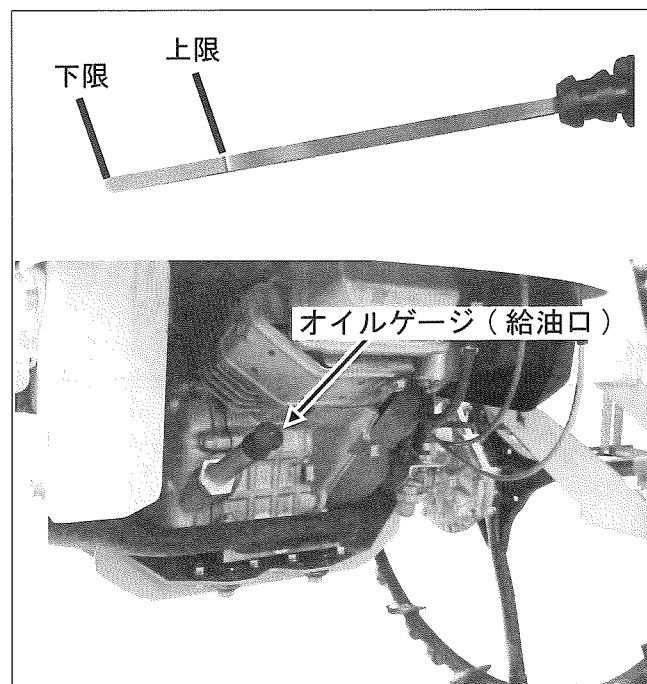
毎日作業前には乗用管理機を水平な所に置き、エンジンオイル量、汚れを点検してください。

警告

エンジンオイルの点検・補給は必ずメインスイッチを「切」にしてエンジンを停止し、充分冷えてから行なってください。これを怠ると、やけどをする恐れがあります。

●点検と補給

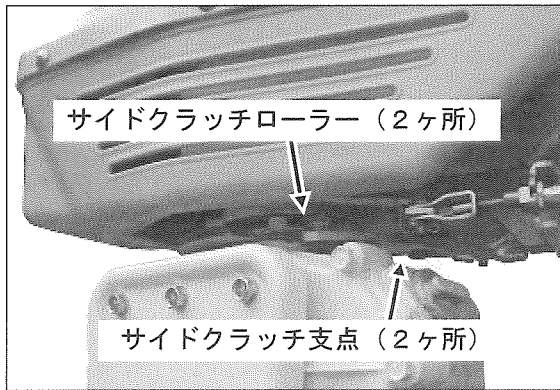
- (1) オイルゲージを外し、上限と下限の間に油量があることを点検します。
- (2) 下限以下の場合は、補給してください。
(38 ページ参照)



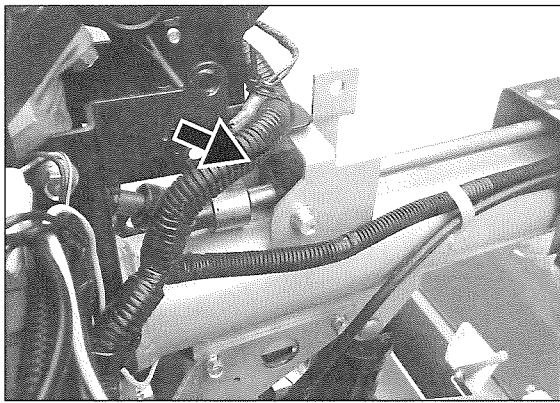
■注油箇所

(1) 次の箇所はシーズン毎にグリス・油を注油してください。

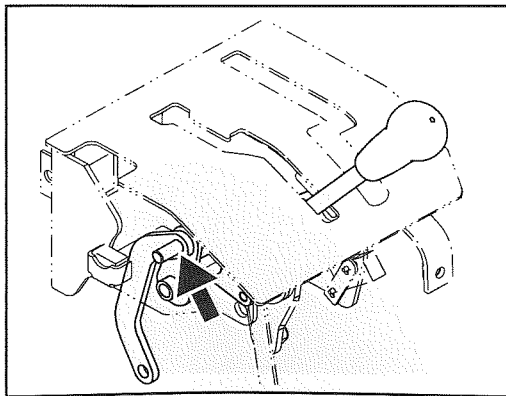
①サイドクラッチ・ローラー支点部 (各2ヶ所)



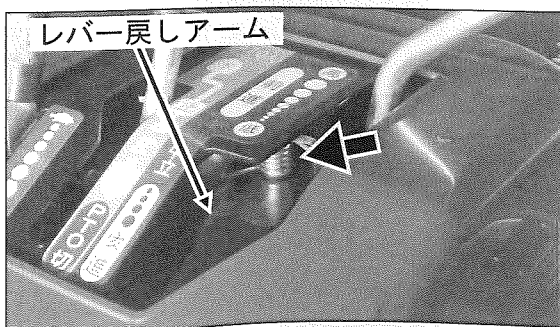
②ニードルベアリング部 (1カ所)



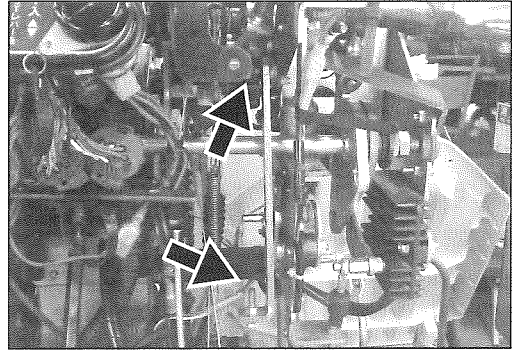
③油圧レバー座軸部 (1ヶ所)



④レバー戻しアーム支点部 (1ヶ所)



⑤バックリフト駆動部 (2カ所)

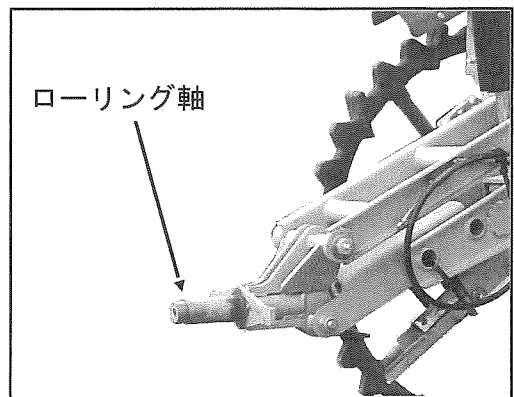


⑥オイルポンプ駆動軸 (1ヶ所)



防護板を取り外してオイルポンプ駆動軸のグリスニップルからモリブデングリスを注入してください。

⑦ローリング軸 (1ヶ所)



重要

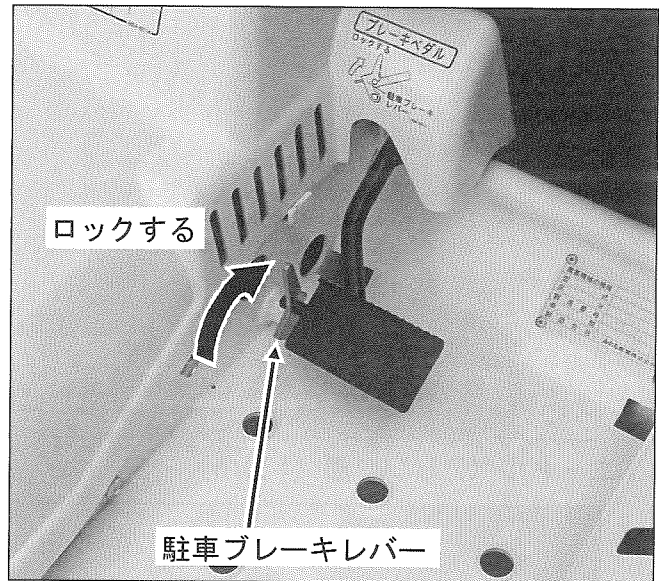
- 作業機を脱着した際は、ローリング軸に必ずグリスを塗布してください。脱着不良の原因になります。

ペダル・レバーの点検

異常がある場合は、購入先に連絡してください。

■ブレーキペダルの点検

ブレーキペダルを駐車ブレーキレバーでロックしたとき、乗用管理機が動かないことを確認してください。

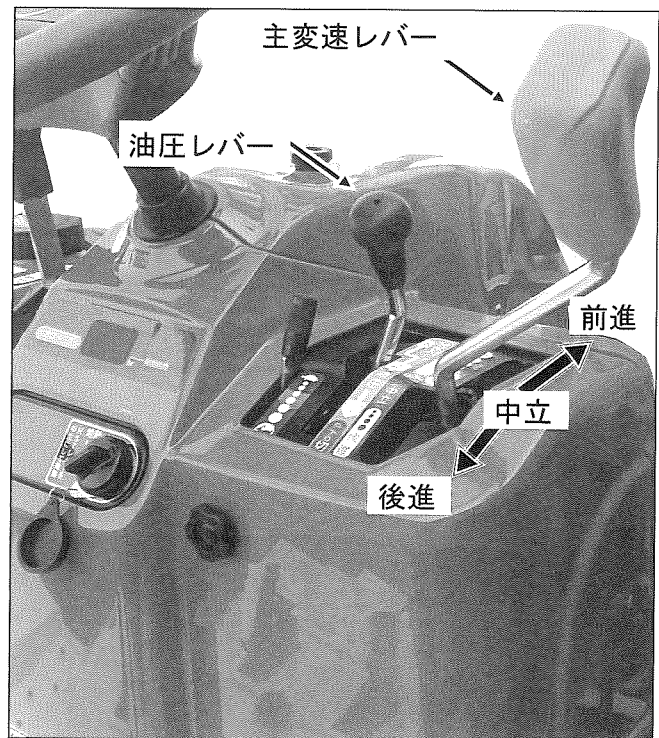


■主変速レバーの点検

⚠ 警告

ブレーキペダル・主変速レバーの点検を怠ると、乗用管理機が停止できず思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。

- (1) エンジンを始動します。
- (2) 副変速レバーを「PTO」にします。
- (3) 作業部をフックに吊った状態で油圧レバーを「PTO入」方向に操作します。
- (4) 主変速レバーを前進側に操作し、作業部が動き始めることを確認します。
- (5) 主変速レバーを「中立」に戻し、作業部が停止することを確認します。



運転のしかた

警告

- (1) 室内でエンジンを始動するときは、窓を開けて換気を充分に行なってください。換気が悪いと排気ガス中毒を起こし大変危険です。
- (2) エンジンを始動するときは、各レバー類の位置と周囲の安全を確認してから行なってください。これを怠ると急発進したりして大変危険です。
- (3) 作業にあったキチンとした作業着を着用してください。だぶついた服装は回転部に巻き込まれやすく危険です。
- (4) ヘルメット・滑りにくい靴を着用し、必要に応じて、安全靴・保護メガネ・手袋などを着用してください。

注意

- (1) 始動する前に安全カバー類が取り付けられていることを確認してください。
- (2) エンジンを始動するときは、周囲の人に声をかけ、合図してください。

エンジンの始動と停止のしかた

■エンジンの始動

- (1) 燃料コックレバーの矢印を「運転」位置にあわせます。
- (2) 駐車ブレーキレバーがロックされていることを確認します。(18 ページ参照)
- (3) 主変速レバーを「中立」、副変速レバーを「PTO」にします。

重要

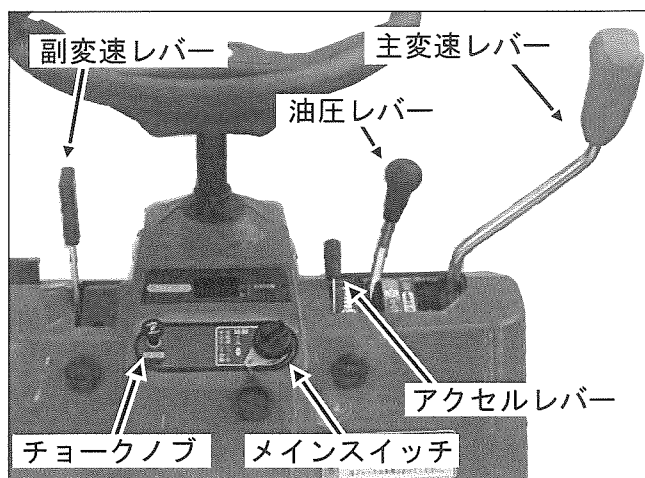
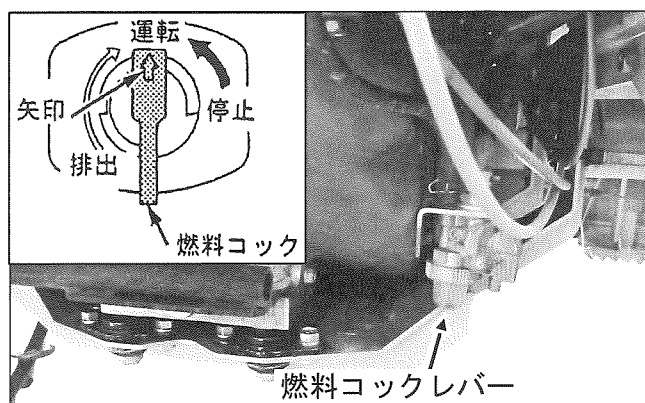
- 主変速レバーを「中立」にしないとエンジンは始動しません。

- (4) チョークノブを引きます。

重要

- エンジンが冷えている場合に始動する時はアクセルレバーを中速程度にし、チョークノブをいっぱい引いてください。

- (5) メインスイッチを「始動」位置まで回します。
- (6) エンジンが始動したら、ただちにスイッチキーから手を離し、エンジンの調子を確認しながらゆっくりとチョークノブを押し込んだ後、約5分間は負荷をかけずに暖気運転を行なってください。



重要

- メインスイッチを「始動」に回して5秒たっても始動しないときは、いったんメインスイッチを「切」にして30秒ほど休止してからエンジンを再始動してください。5秒以上の使用は故障の原因になります。
- エンジン回転中にメインスイッチを「始動」に回すと故障の原因になります。
- オイルを各部に充分ゆきわたらせるため、必ず暖気運転は行なってください。始動してからすぐ負荷をかけると、運転部分の焼付きや破損などの故障の原因になります。
- バッテリーの電圧が下がってエンジン始動ができない場合に、バッテリーを乗用管理機から取り外し、ブースターケーブルを使用してエンジンを始動すると、電装品が破損するので絶対にしないでください。
- エンジン高温時にエンジンを始動するとパンと音が鳴ることがありますが、機械使用上問題ありません。

■ならし運転について

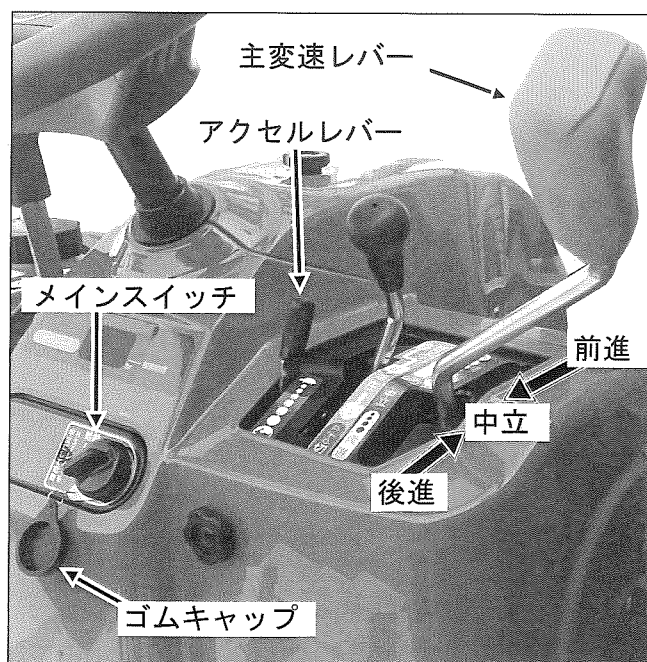
- (1) 新車時の上手な運転操作やメンテナンスが乗用管理機の寿命に影響を及ぼします。新車の乗用管理機は厳重な検査のもと出荷されていますが、機械の各部の部品はならし運転されていません。機械各部の部品がなじむまでは走行速度は低速で、作業は過負荷にならないよう注意して行なってください。
- (2) 毎年使用前には、必ず5～10分程度エンジンを最低回転でならし運転をしてから使用してください。

■エンジンの停止

- (1) 主変速レバーを「中立」にします。
- (2) アクセルレバーを後方に引いている場合は前方に押し、エンジン回転数を下げます。
- (3) メインスイッチを「切」にしてエンジンを停止します。

重要

- エンジンを高速回転のまま停止しないでください。
- エンジン高温時にエンジンを切るとアフターバーン（パンと音が鳴る）が発生することがありますが、機械使用上問題ありません。エンジンを約1分間程度最低回転で運転した後にエンジンを切ることにより、アフターバーンは発生しにくくなります。
- エンジン停止中に、メインスイッチ「入」の状態です長時間放置するとバッテリーあがりの原因となります。
- キースイッチを外したら必ずゴムキャップをかぶせてください。（特に水洗い、保管時）



発進・停止・駐車のしかた

■発進のしかた

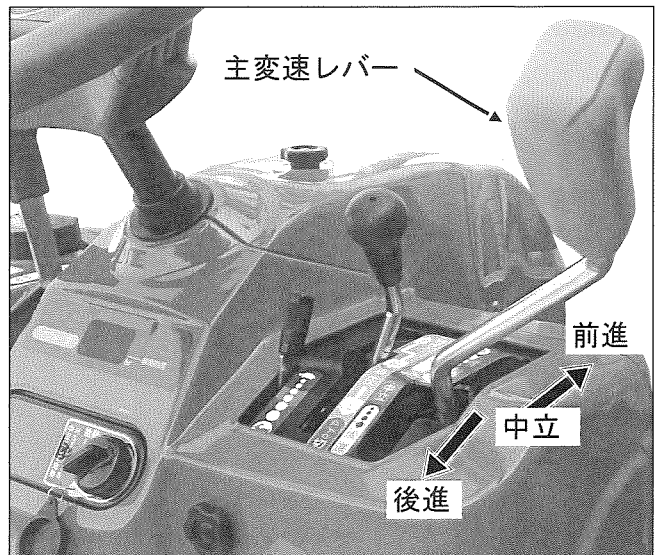
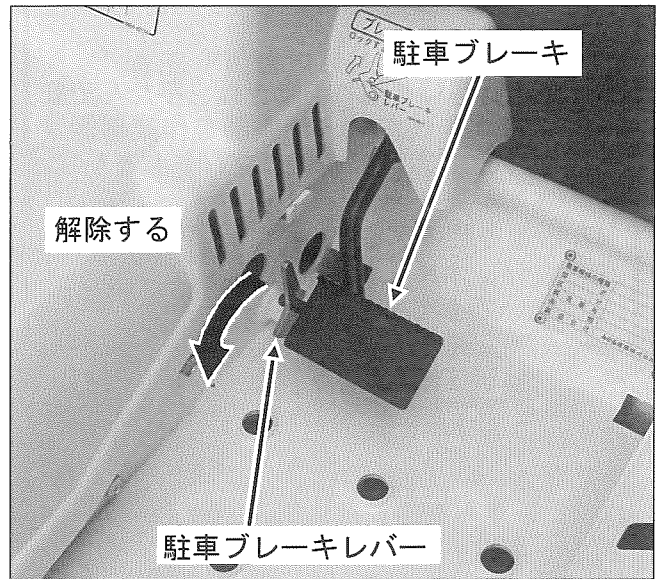
⚠ 注意

- (1) 始動操作は、必ず運転席で行なってください。
- (2) 急発進は危険ですので周囲の安全を確認して、ゆっくりと発進してください。

- (1) エンジンを始動します。(24 ページ参照)
低温始動時には、十分に暖気運転を行なってください。充分でないと、発進時にエンストする場合があります。
- (2) 走行場所に合わせて副変速レバーをセットします。
- (3) ブレーキペダルを踏み込んで駐車ブレーキを解除します。
- (4) 主変速レバーを中立位置より前方に押しと前進し、後方に引くと後進します。

重要

- 副変速レバーの切替えは平坦な場所で主変速レバーを「中立」にし、走行をいったん止めてから行ってください。守らないと故障の原因となります。

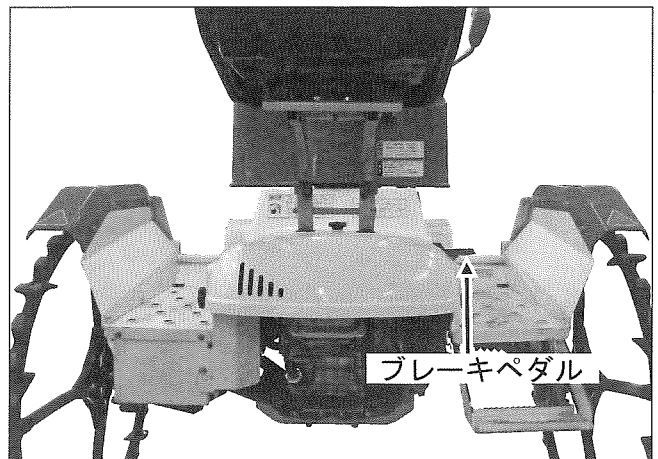


■停止のしかた

⚠ 警告

急ブレーキは危険ですので、緊急時以外はさけてください。

- (1) 通常の停車時は主変速レバーを「中立」にします。
- (2) 急停車する場合は、ブレーキペダルを踏み込んでください。

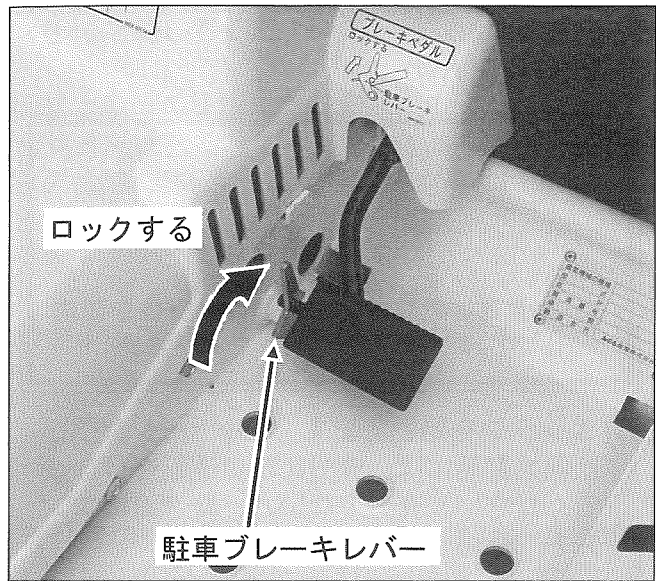


■ 駐車のしかた

⚠ 注意

- (1) 乗用管理機を離れるときは、平たんで安全な場所におき、作業部を作業部固定フックで固定し、駐車ブレーキをかけ、エンジンを止めてください。
- (2) 坂道で駐車するときは、駐車ブレーキをかけ、木片などで車輪止めをし、暴走を防いでください。

- (1) 主変速レバーを「中立」にします。
- (2) エンジンを停止します。
- (3) 副変速レバーを「PTO」にします。
- (4) ブレーキペダルを踏み込み、駐車ブレーキレバーでロックします。



移動・運搬のしかた

■移動のしかた

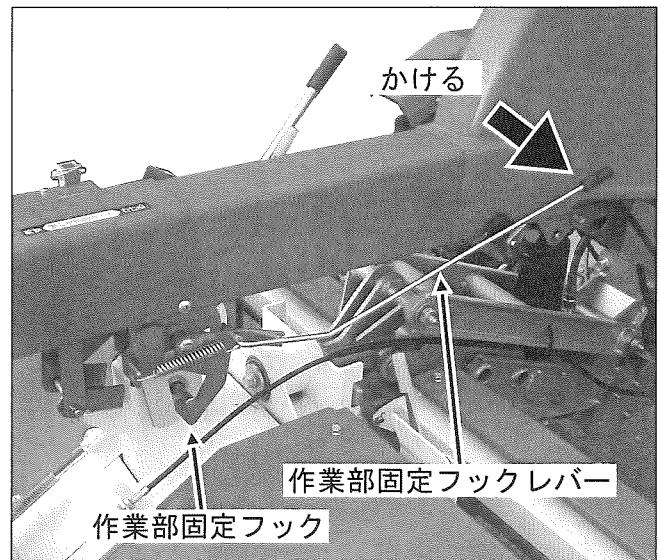
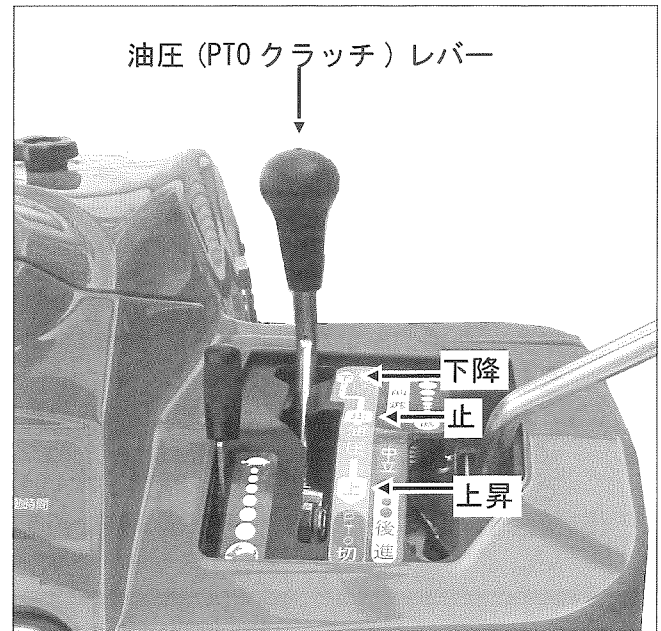
警告

- (1) 移動する時は運転者以外は絶対に人を乗せないで下さい。
 - (2) 移動するときはエンジン回転を落とし、主変速レバーもなるべく低速で行なってください。特に凹凸の激しい場所・地面の軟弱な場所・傾斜地等では慎重に移動してください。
- これを怠ると、転倒・転落事故を引き起こす恐れがあります。

- (1) 作業機が付いている場合は、油圧レバーを「上」にして作業部をいっぱい上げます。作業部固定フックレバーを「かける」にします。油圧レバーを「下」にして作業部固定フックで作業部を吊り下げ、油圧レバーを「止」にします。
- (2) 移動場所に合わせて副変速レバーで速度を選びます。
- (3) 駐車ブレーキレバーのロックが外れていることを確認してから、主変速レバーをゆっくり操作して発進します。

重要

- 作業部を下降した状態で走行すると、作業部やフロートが破損する恐れがあります。
- この乗用管理機は、道路運送車両法の保安基準に適合していませんので、法令により公道は走行できません。従って、移動するときはトラックなどで輸送してください。



■トラックへの積み降ろし

警告

- (1) 積み降ろしは平坦な場所を選び、トラックの駐車ブレーキをしっかりとかけ、車輪止めをしてください。
- (2) アユミ板を荷台にかけるときは、段差がなく平行で、左右のあおりに機体が接触しない位置に合わせてください。
- (3) 作業にあったキチンとした作業着を着用してください。だぶついた服装は回転部に巻き込まれやすく危険です。
- (4) 積み込みは後進、低速で行なってください。
- (5) 共同作業者は、アユミ板を走行中の乗用管理機からは離れてください。
- (6) 平坦な場所を選び、できるだけ誘導者の立会いのもとに行なってください。また、乗用管理機の周辺に人を近付けないでください。
- (7) アユミ板の途中で急なハンドルの操作や副変速レバーの操作及びブレーキペダルを急に踏み込むと機械が急降下し落下する危険がありますので、操作しないでください。方向を変えるときは、一度地上または荷台に戻って方向を修正し、再度上り下りし直してください。
- (8) 荷台上では駐車ブレーキをかけ車輪止めをし、ロープでしっかりトラックに固定してください。

注意

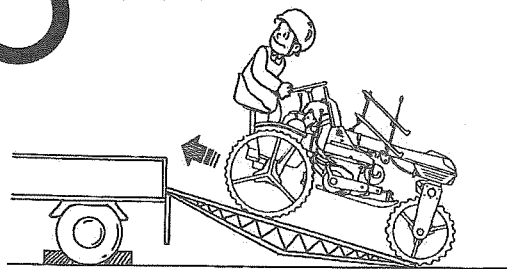
- アユミ板はフックが付いているもので、十分な強度、幅、長さのある基準にあったすべり止め付きのものを使用し、乗用管理機の重量でアユミ板が傾いたりしない場所を選んでください。

- (1) 油圧レバーを「上」にして作業部をいっばい上げます。
- (2) 作業部固定フックレバーを「かける」にします。
- (3) 油圧レバーを「下」にして作業部固定フックで作業部を吊り下げ、油圧レバーを油圧「止」にします。
- (4) 副変速レバーを「作業」にします。
- (5) 主変速レバーをゆっくり操作して、積み込むときは「後進」、降ろすときは「前進」で低速走行してください。

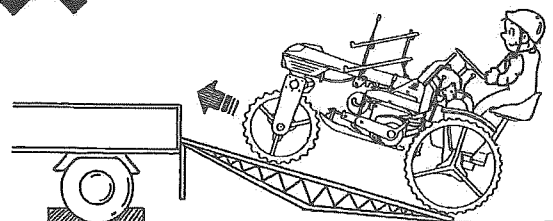
<アユミ板の基準>

- 長さ：車の荷台の高さの4倍以上
- 幅：30cm以上
- 数量：3枚
- 強度：1枚の強度が500kg以上の質量に耐えるもの
- すべり止めのあるもの

○ 後進で積み込みします。



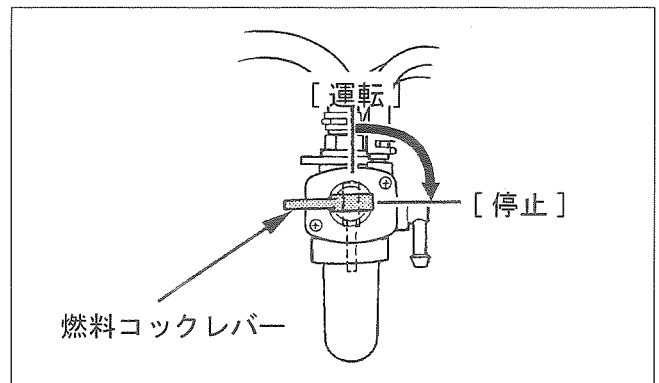
✕ 前進での積み込み禁止。



■運搬中の固定のしかた

注意

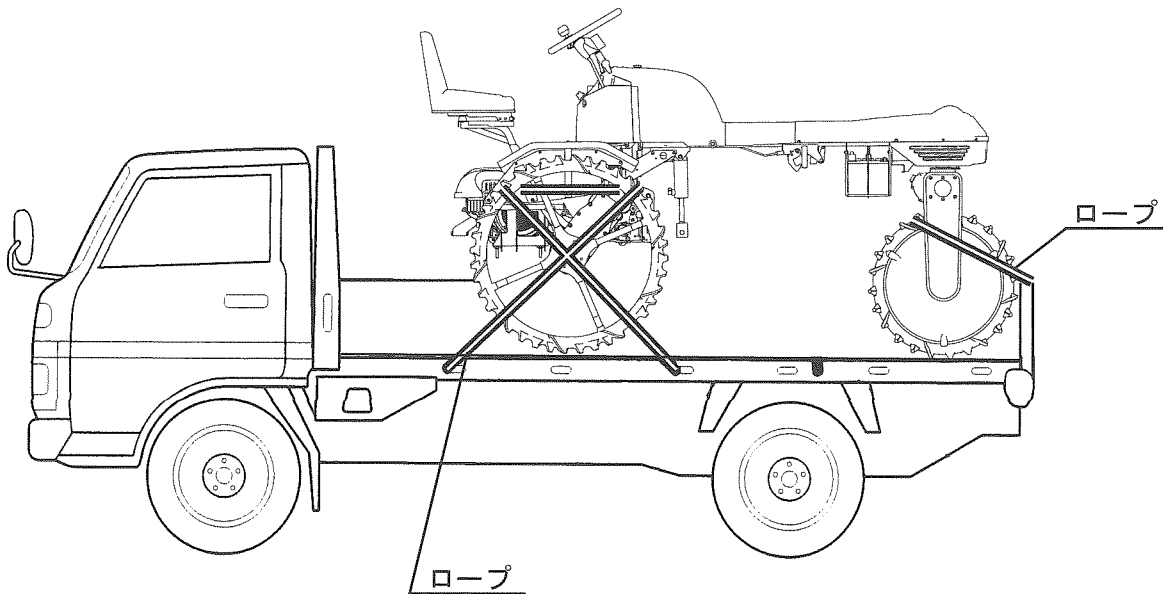
燃料コックを「停止」にしないと、トラック輸送時に燃料もれの原因になり危険です。必ず「停止」にしてください。



- (1) 荷台に乗せ終わると、エンジンを停止し、ブレーキペダルを踏み込み、駐車ブレーキレバーでロックします。
- (2) 副変速レバーを「作業」にします。
- (3) 燃料コックレバーの矢印を「停止」にします。
- (4) 前輪を荷台の後部に引きつけてロープで固定します。
- (5) 後輪をロープでたすきかけして固定します。

重要

- 悪路はゆっくりと運搬してください。
- 作業部を装着している場合は、作業部を強い力でロープ掛けしないでください。

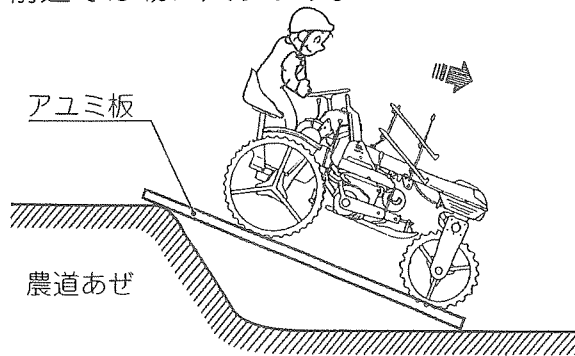


ほ場への出入りのしかた

警告

- (1) ほ場との高低差が大きい場合は、アユミ板を使用してください。
- (2) ほ場への出入りの際は、乗用管理機に荷物を積まないでください。

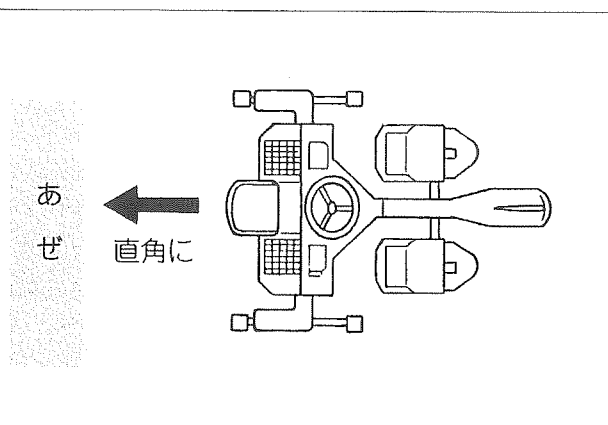
前進でほ場に入ります。



■ほ場への入りかた

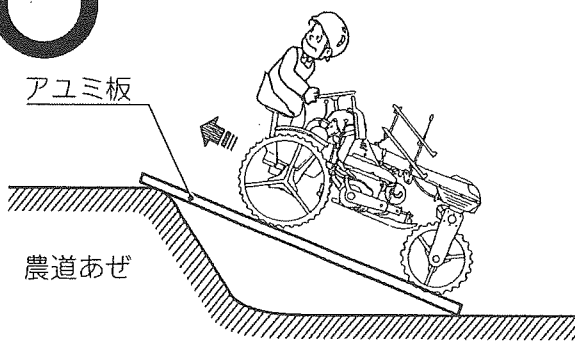
注意

ほ場への出入りや畦越えをする場合には、アクセルレバー・主変速レバーを低速にしてください。
畦や斜面に対して上り方向は後進、下り方向は前進で走行し、必ず畦に直角にゆっくり進んでください。
斜めになるとスリップや横転の原因となり大変危険です。



- (1) 作業部を作業部固定フックにかけます。(19 ページ参照)
- (2) 副変速レバーを「作業」にし、主変速レバーをゆっくり操作して、前進でゆっくりとほ場に入ってください。

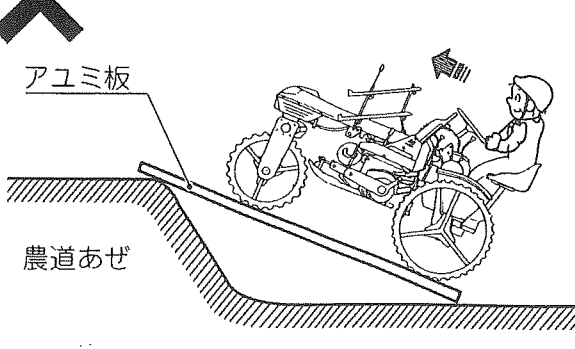
○ 後進でほ場から上がります。



■ほ場からの出かた

- (1) 作業部を作業部固定フックにかけます。(19 ページ参照)
- (2) 副変速レバーを「作業」にし、主変速レバーをゆっくり操作して、後進でゆっくりとほ場から出てください。

✕ 前進でほ場から上がると転倒します。



作業のしかた

乗用管理機が使用できる耕盤の深さは 40cm までです。

泥炭地、基盤整備田等で本乗用管理機が沈むような耕盤の不安定な悪条件のほ場では使用できなかつたり、乗用管理機の早期破損の原因となります。また、本乗用管理機の特徴をよく知って、それにできるだけ合わせたほ場・乗用管理機の準備をしていただくことが大切です。

警告

- (1) 夜間作業は行なわないでください。思わぬ事故を起こす恐れがあります。
- (2) 後進する場合、後方に川（用水路）や崖のある場合は転落しないように充分注意してください。
- (3) 異常が発生したときは、エンジンを必ず止めてください。
- (4) 小さなほ場や、ほ場のすみでは作業がしにくいので安全のため低速で注意しながら作業を行なってください。

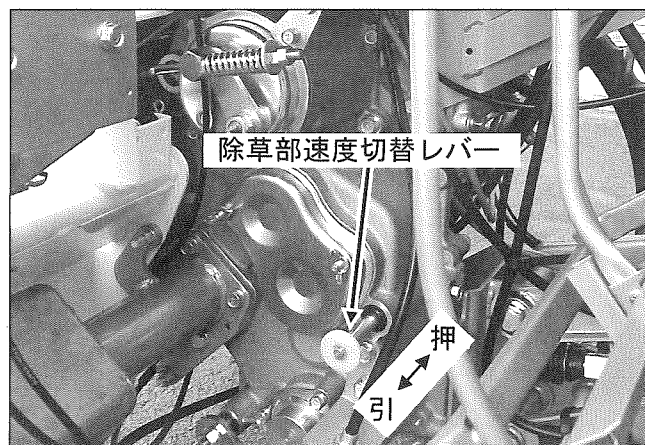
注意

- (1) 補助者と共同作業を行なうときは、お互いに充分注意・合図をし合って安全に作業を行なうようにしてください。
- (2) 機体への乗り降りの際に主変速レバーに体の一部が接触すると、機体が発進する恐れがありますので、必ず駐車ブレーキをかけてください。
- (3) 運転席を離れるとき、運転操作をしないときは主変速レバーを「中立」、副変速レバーを「PTO」にして駐車ブレーキをかけてエンジンを停止してください。

作業前の準備

■ 除草部速度切替レバーの切替えかた

- (1) 通常は除草部速度切替レバーを「押」にして使用してください。切替レバーを「引」にして使用すると PTO 軸が速く回転しますが、この場合は主変速レバーを半速程度にし作業してください。
- (2) 副変速レバーを「PTO」にします。
- (3) エンジンを停止します。
- (4) 除草部速度切替レバーを操作して PTO 軸の回転速度を調節します。



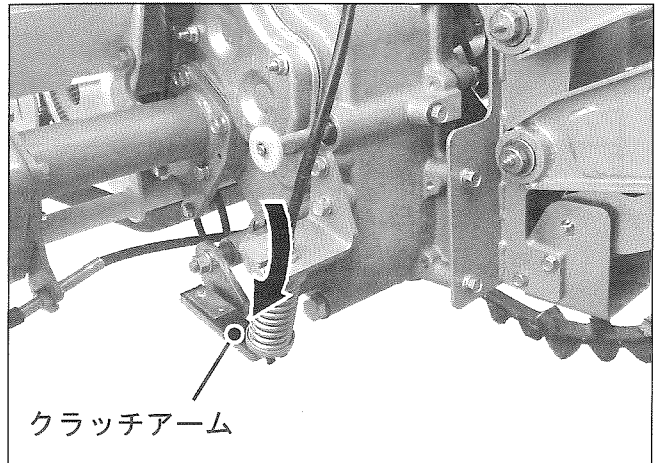
重要

- 走行部のみの出荷状態では PTO 軸は回転しません。PTO 軸を回転させる場合は替ギヤを装着してください。（P17 参照）
- 切替レバーが確実に切り替わっておらず、中間位置になった場合、前進はしますが作業部は動きません。
- 切替レバーが切り替わりにくいときは、エンジンを始動させた後、副変速レバーを「PTO」にして、いったん主変速レバーを「前進」側に操作し、再度「中立」に戻してからエンジンを停止し、切替レバーを操作してください。
- 切替レバーを「引」にして主変速レバーを半速以上で作業すると、機械の破損の原因となります。

■水田駆動除草機が作動しないとき

作業中に油圧レバーを操作しても水田駆動除草機が作動しない場合は安全クラッチが食いついていますので、次の処置をしてください。

- (1) ただちに主変速レバーを「中立」にしてエンジンを停止します。
- (2) 油圧レバーを「下」にします。
- (3) クラッチアームをプラスチックハンマー等で矢印方向に軽く叩きます。
- (4) クラッチアーム周辺部品が変形していないことを確認します。エンジンを始動し主変速レバーをゆっくり前進方向に操作して、作業部が正常に作動することを確認して、連続作業を再開します。



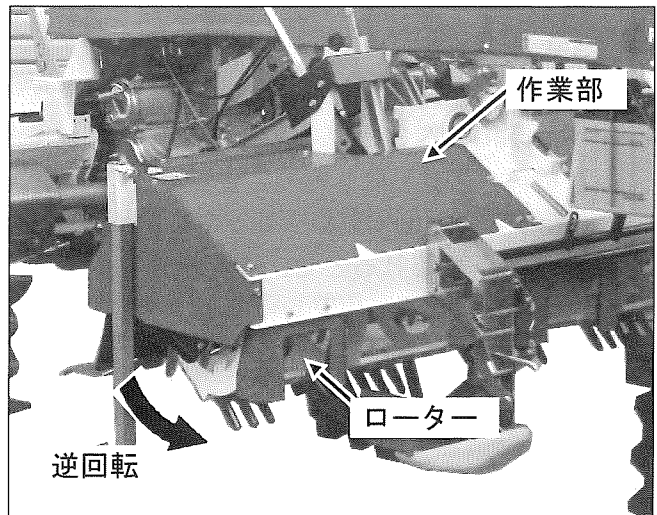
■安全クラッチが作動したとき

警告

安全クラッチの確認時は、必ずエンジンを停止して行なってください。これを怠ると、傷害事故の原因となり大変危険です。

作業中に作業部が止まりカチカチ音がある場合は安全クラッチがはたらいていますので、次の処置をしてください。また、あわせて作業部の取扱説明書をよく読んで、適切な処置をしてください。

- (1) ただちに主変速レバーを「中立」にします。
- (2) 副変速レバーを「PTO」にし、作業部を上昇させ作業部固定フックをかけて、エンジンを停止します。
- (3) 油圧レバーを「PTO 入」にします。
- (4) 副変速レバーを「移動」にします。
- (5) 作業部に石などが噛んでいないか確認し、手でローターを逆転方向に回転させ、石などを取り除きます。
- (6) 周辺部品が変形していないことを確認します。エンジンを始動し主変速レバーをゆっくり前進方向に操作して、作業部が正常に作動することを確認して、連続作業を再開します。

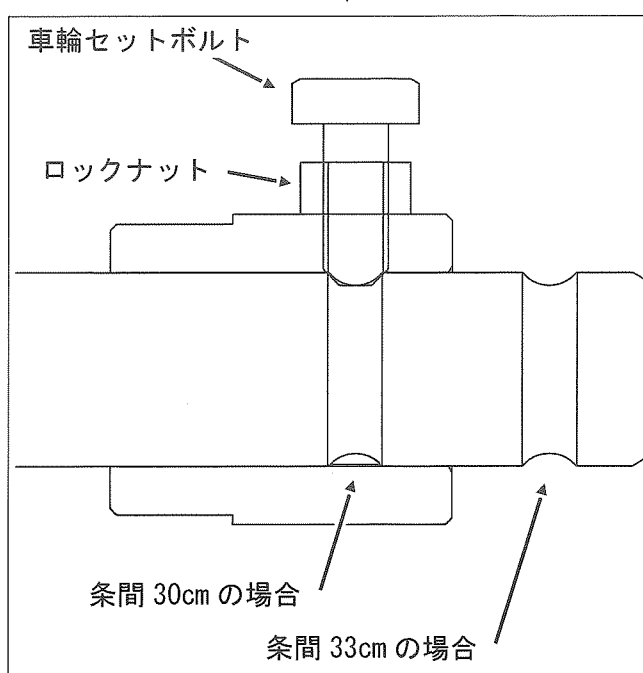
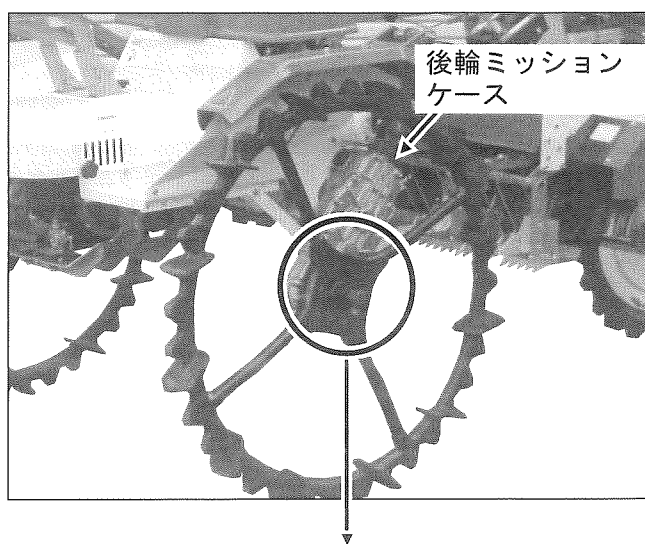


重要

- 部品が変形・破損したときは、購入先に連絡して部品交換をしてください。

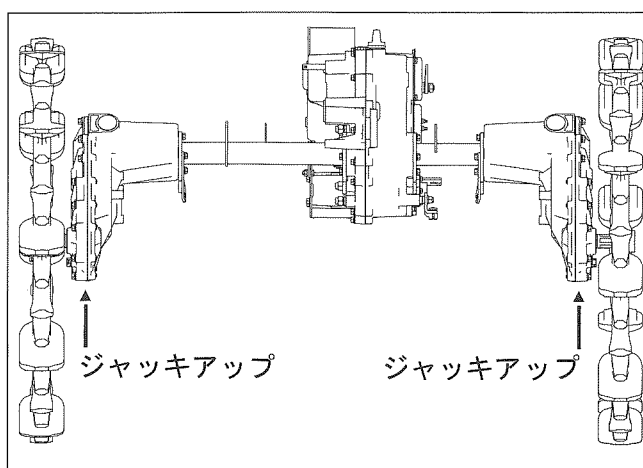
■後輪の輪距調節

- (1) 水田駆動除草機を取り付けて使用する場合は、植付条間に合わせて後輪の輪距を調節します。
- (2) ロックナットをゆるめ、車輪セットボルトをゆるめます。
- (3) 後輪ミッションケースをジャッキアップして、後輪を少し浮かせます。
- (4) 条間が 30cm の場合は後車軸の内側の溝に、条間が 33cm の場合は後車軸の外側の溝にセットボルトを合わせます。
- (5) 車輪セットボルトを $33 \sim 44\text{N}\cdot\text{m}$ ($330 \sim 450\text{kgf}\cdot\text{cm}$) で締め付けたあと、ロックナットを $33 \sim 44\text{N}\cdot\text{m}$ ($330 \sim 450\text{kgf}\cdot\text{cm}$) で確実に締め付けてます。



警告

- (1) 輪距の調節をするときは、必ず平坦な場所で、エンジンを停止して行なってください。これを怠ると傷害事故を引き起こす恐れがあり大変危険です。
- (2) セットボルトは車輪軸のザグりに確実に合わせてください。これを怠ると思わぬ事故を引き起こす恐れがあり大変危険です。
- (3) ジャッキアップする時は適切な落下防止措置を行なってください。



点検整備

定期点検

定期点検は、ユーザーが定期的に行なう点検です。

乗用管理機は、使用時間と使用状況に応じて劣化が進み、その構造や装置の性能が低下します。これを放置しておくとならば故障や事故の原因となり、ひいては乗用管理機の寿命を短くしてしまいます。乗用管理機の持つ性能がいつまでも充分発揮できるよう、定期的に点検を行ないましょう。



危険

●燃料・オイルの補給中やバッテリーの点検・充電・交換中は火気厳禁で行なってください。



警告

- (1) 作業部を上げた状態で作業を行なうときは、作業部固定フックレバーを「かける」にして作業部を固定して作業を行なってください。
- (2) 燃料やオイルがこぼれたときは、きれいにふき取ってください。
- (3) 機械から廃油を抜く場合は、容器に受けてください。
- (4) 廃棄物をみだりに捨てたり焼却すると、環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。
- (5) 廃油を地面へたれ流したり、河川・湖沼・海洋へ投棄したりしないでください。
- (6) 廃油・燃料・フィルター・ゴム類・その他の有害物を廃棄または焼却するときは、購入先または産業廃棄物処理業者などに相談して、所定の規則に従って処理してください。
- (7) 作業にあったキチンとした作業着を着用してください。だぶついた服装は回転部に巻き込まれやすく危険です。
- (8) ヘルメット・滑りにくい靴を着用し、必要に応じて安全靴・保護メガネや手袋などを着用してください。



注意

- (1) 取り外した回転部のカバー類は、衣服などが巻き込まれる恐れがありますので、点検後はカバー類を必ず取り付けてから作業をしてください。
- (2) 各部の点検・調整・交換作業を行なうときは、平たんな場所で駐車ブレーキをかけエンジンを必ず止めてから作業をしてください。
- (3) エンジンカバーを外すときは内部が充分冷え、やけどの恐れがないことを確認してください。

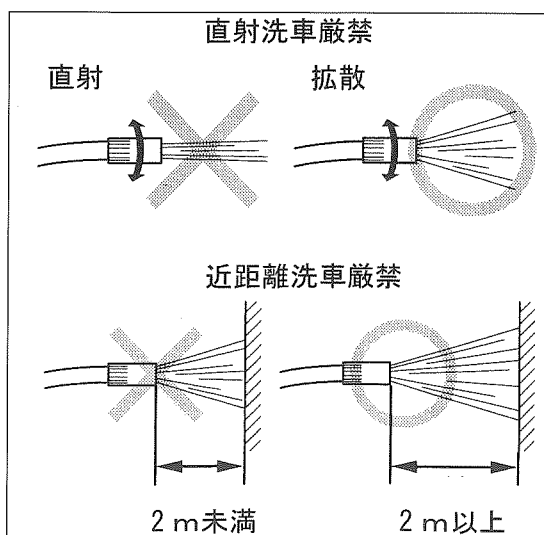
■洗車時の注意

高圧洗車機の使用方法を誤ると人をケガさせたり、機械を破損・損傷・故障させることがありますので、高圧洗車機の取扱説明書・ラベルに従って、正しく使用してください。



注意

- 機械を損傷させないように洗車ノズルを拡散にし、2 m以上離して洗車してください。もし直射にしたり、不適切に近距離から洗車すると、
- (1) 電気配線部被覆の損傷・断線により、火災を引き起こす恐れがあります。
 - (2) 油圧ホースの破損により、高圧の油が噴出して傷害を負う恐れがあります。



重要

- 直射にしたり、不適切に近距離から洗車すると、機械の破損・損傷・故障の原因になります。
例①シール・ラベル、塗装・メッキの剥がれ
②エンジン、電装部品、コネクタ内部等への浸水による故障
③オイルシール等へのゴム類、樹脂部品等の破損

■定期点検・整備一覧表

○：点検と調整 △：交換 ▲：ならし運転後の交換

点検箇所・項目	点検・処置	点検・交換時期						参照ページ
		作業前後	シーズン前後	50時間	150時間	200時間	2年ごと	
エンジン部								
燃料フィルターポット (燃料フィルター)	掃除・洗淨		○					40 ☆
エアクリーナ エレメント	掃除	○：50時間ごと(日常点検でも汚れがひどいときは都度掃除) △：汚れがひどいとき						41 ☆
点火プラグ	掃除					○		41 ☆
	すき間調整	○：500時間ごと						
気化器(キャブレター)	掃除	○：エンジン不調時など						☆
燃料ホース	バンド 締付け	○					△	42 ☆
		(作業前点検し、燃料もれしているときは締付けバンドの 締付け又は、交換)						
走行・操作部								
変速ミッションオイル フィルタカートリッジ	—			▲	△			43 ☆
HST 駆動ベルト	—	△：磨耗、被覆のはがれ、き裂やひび割れが発生したとき						42 ☆
ブレーキペダル	点検	○						23 ☆
主変速レバー	点検	○						23 ☆
車輪	点検	○						43 ☆
電装部								
バッテリー	充電	○：セルモータが回りにくいときなど △：バッテリー上り(セルモータが回らないとき)						45 ☆
電気配線・ バッテリーコード	点検	○						48 ☆
		△：破損時						
ヒューズ スローブローヒューズ	—	△：破損時(ヒューズ切れ)						48 ☆

重要

- 専門的な技術や特殊工具を必要とする場合及び、参照ページに☆印のある項目については、購入先に連絡または整備工場で行なってください。
- 機械の稼働時間はメインパネルに表示されます。(15 ページ参照)
- 上表の時間は目安です。使用条件や使用環境などによって、消耗部品の調整や交換時期は異なりますので早めの点検をお願いします。
- 補給や交換の際は、ゴミや水などの異物が混入しないように注意してください。

■給油・注油点検一覧表

種類	点検箇所	処置	点検・交換時期		容量・規定量	種類	参照ページ
			点検	交換			
オイル	エンジン	補給・交換	作業前 又は、 作業後	●初回 …20時間目 ●2回目以降 …100時間ごと	*規定量 約1.0L オイルゲージの 下限と上限の間	エンジンオイル API 分類 SE 級以上 10W-30	21、38
	変速ミッション	補給・交換	作業前 又は、 作業後	●50時間ごと または 3年経過時	*規定量 オイルゲージの 範囲内 ●容量…約6.5L	みのる純正 HSTオイル	39 ☆
	後輪ミッション (左右)	補給・交換	作業前 又は、 作業後	●初回 …50時間目 ●2回目以降 …100時間ごと	*規定量 給油口までの 高さ2~3cm ●容量…各約2.2L	ギヤオイル #90	39
液	バッテリー液	補水	作業前 又は、 作業後	—	*規定量 バッテリー側面の 下限と上限の間	精製水	45
注油・ グリス	各部	補給	適宜		適量	油・グリス	22

■燃料・オイルの点検・補給・交換



危険

- (1) 燃料やオイルの補給中は火気厳禁です。
- (2) エンジン停止直後は、エンジン周りや各部オイルが熱くなっているため、引火火災ややけどをする恐れがあります。

重要

- 補給・交換を行なうときは、機械の故障の原因となりますので下記事項を守ってください。
 - エンジンオイル量の点検は、エンジン停止後、5分以上経過してから行なってください。
 - 変速ミッションは使用開始から50時間に満たない場合でも、3年経過後はオイル交換をしてください。
 - 廃油は使用しないでください。
 - 給油口やその周辺からゴミなど異物や水の混入を防ぐため掃除してください。
 - 使用するオイルは指定のものを使用してください。
- 点検するときは機体を水平な場所において行なってください。傾いていると正確な量を示しません。
- オイル排出時、乗用管理機内にオイルが残る場合があります。その場合、規定量を給油するとオイルが溢れますので、給油時は油面を確認しながら慎重に行なってください。

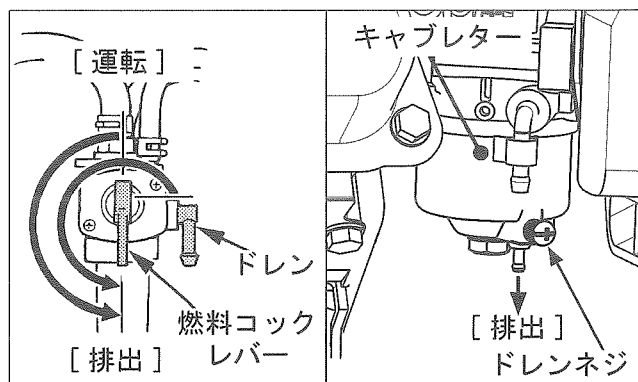
■燃料の排出

⚠ 危険

- (1) 燃料を排出するときは、エンジンやマフラーが充分冷えてから行なってください。火災が発生する恐れがあります。
- (2) 燃料のガソリンを保管するときは、必ず専用の容器に保管してください。市販のポリタンクでのガソリンの運搬・保管は絶対にしないでください。(消防法で禁止されています)

長期格納時や燃料の交換を行なうときは、燃料タンクのガソリンを排出します。

- (1) ガソリンを受けるための鋼製の容器を準備したあと、燃料コックレバーを「排出」位置にして、ドレンからガソリンタンク内の燃料を排出します。
- (2) キャブレターのドレンネジをゆるめて、キャブレター内のガソリンを排出します。
- (3) ゆるめたドレンネジを締め付け、燃料コックレバーを元の位置に戻します。



■エンジンオイル

毎日作業前には乗用管理機を水平な所に置き、エンジンオイル量、汚れを点検してください。

⚠ 警告

エンジンオイルの点検・補給は必ずメインスイッチを「切」にしてエンジンを停止し、充分冷えてから行なってください。これを怠ると、やけどをする恐れがあります。

●点検・補給

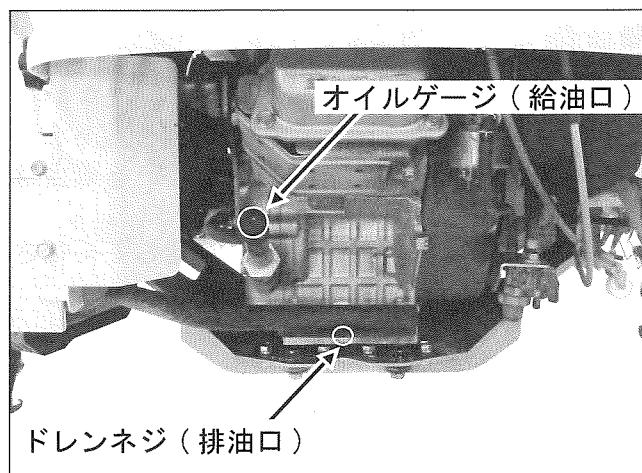
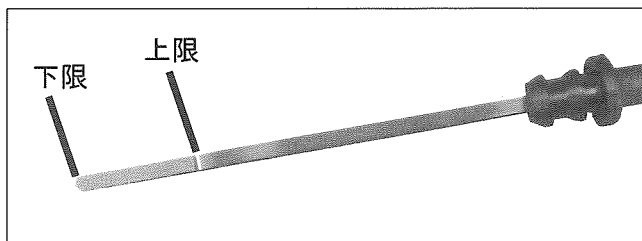
- (1) オイルゲージを外し、上限と下限の間に油量があることを点検します。
- (2) 下限以下の場合は、補給してください。
- (3) オイルは API 分類 SE 級以上の 10W-30 オイルを使用してください。

●排油のしかた

暖気運転後、オイルゲージを外してからドレンネジを外し、オイルを排出してください。

●給油のしかた

ドレンネジを締め付けて、給油口から規定量のオイルを給油し、オイルゲージを確実に差し込んでください。



オイルの種類	オイル容量
SE 級以上 10W-30	約 1.0 L

重要

- 指定以外のオイルを使用すると、出力が低下したり、エンジンオイルが異常に消耗または劣化し、エンジントラブルの原因になります。
- エンジンオイル補給後は、エンジンを始動させた後、一度エンジンを停止させてオイルがオイルゲージ範囲内にあることを確認してください。
- 「上限」以上、オイルを補給しないでください。

■変速ミッションオイル

●点検・補給

(1) 作業部がある場合はエンジンをかけて作業部を上昇させ、作業部固定フックで吊り下げた後、エンジンを停止します。

作業部がない場合はエンジンをかけて油圧レバーを「上」にして5秒ほど保持した後「止」にしてエンジンを停止します。

(2) オイルゲージの範囲内に油面があるか確認します。

(3) 不足している場合は、給油口から規定量になるまで給油してください。さらに油もれないことも調べてください。

●排油のしかた

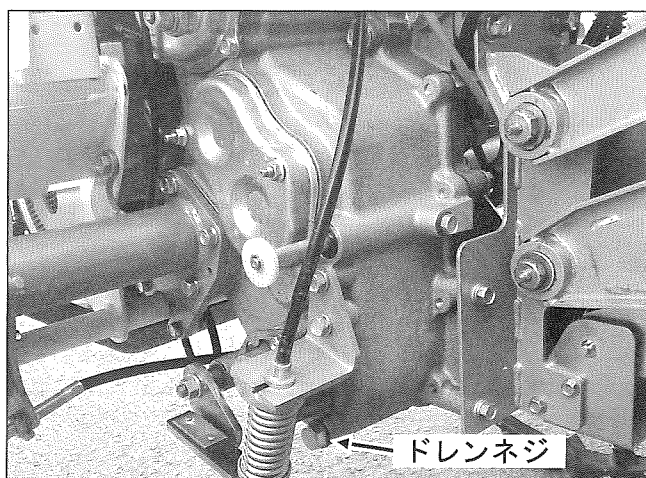
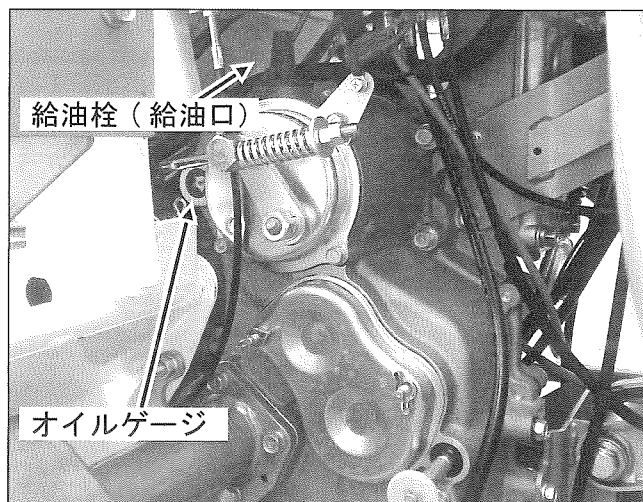
作業部を下降させた後、ドレンネジを外し、オイルを排出してください。

●給油のしかた

ドレンネジを締め付けて、給油口から規定量のオイルを給油し、給油栓を差し込んでください。

重要

●給油したあとエンジンを約1分回転させて、再度点検を行ない不足しているときは、オイルを追加補給してください。



オイルの種類	オイル容量
みのる純正HSTオイル	約 6.5L

■後輪ミッションオイル（左右）

●点検・補給

給油栓を外し、給油口までの油面高さが2～3cmが点検します。不足している場合は規定量になるまで給油してください。

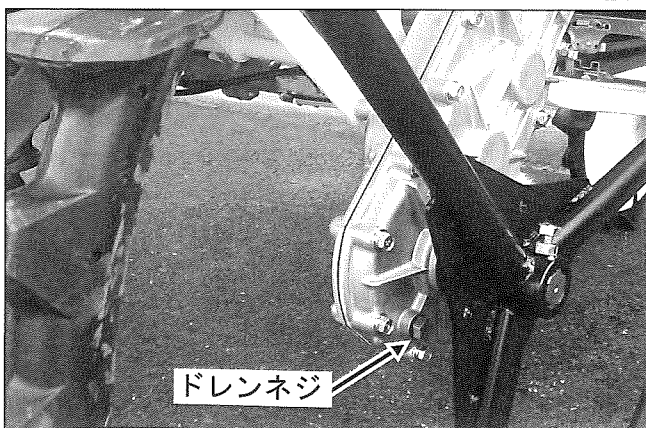
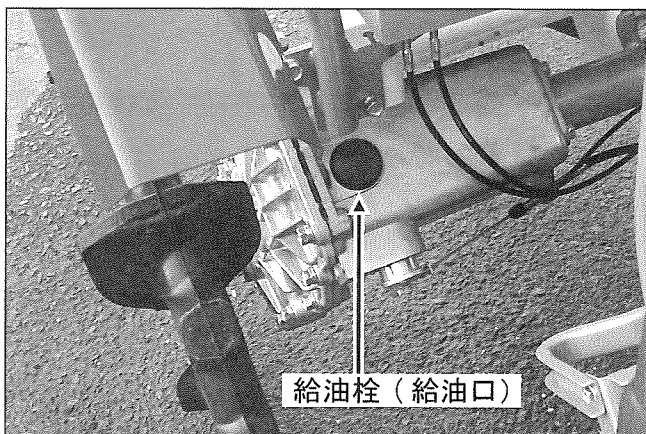
また、油もれないことも確認してください。

●排油のしかた

給油栓を外してから、ドレンネジを外し、オイルを排出してください。

●給油のしかた

ドレンネジを締め付けて、給油口から規定量のオイルを給油し、給油栓を差し込んでください。



オイルの種類	オイル容量
ギヤオイル #90	各約 2.2L

■燃料フィルターポットの点検・掃除

危険

点検・掃除中は引火の恐れがあるため、火気厳禁です。

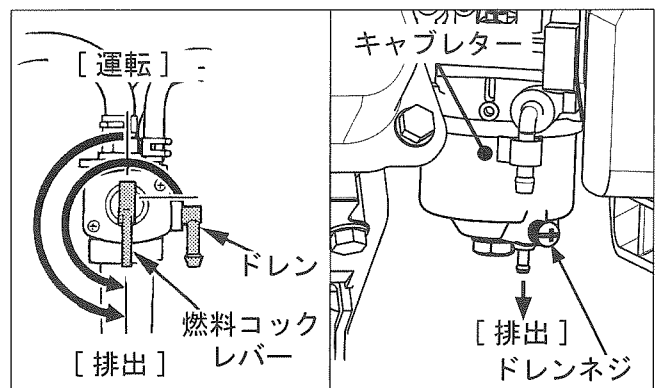
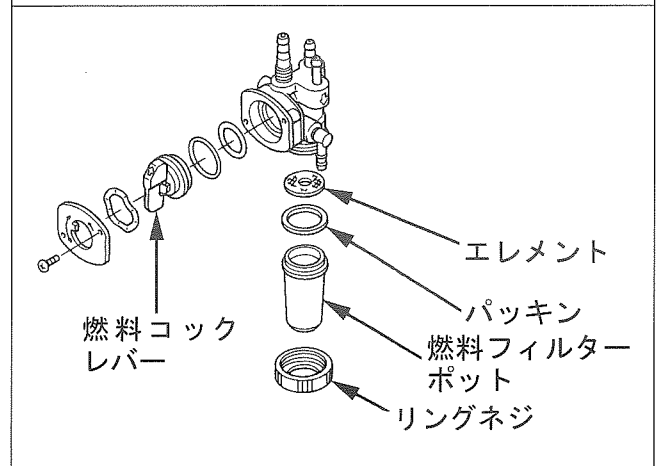
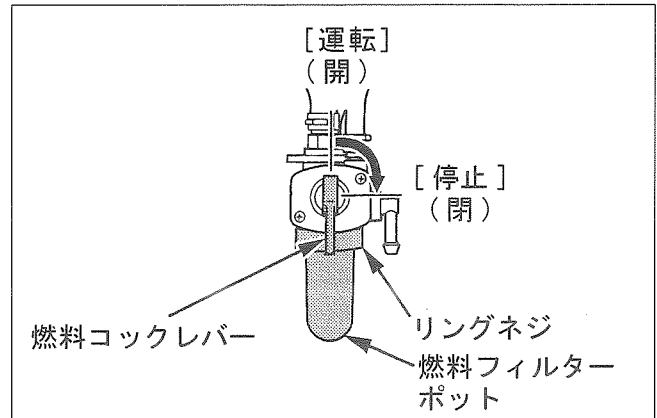
掃除は燃料を給油する前に行なってください。

重要

- 燃料内にゴミなどの異物や水が混入すると、フィルターのエレメントの目詰まりが早くなったり、フィルター内に水が溜まりやすくなります。
- 燃料フィルターポット下部に水が溜まっているときは、早めに掃除又は交換してください。
- 点検・掃除
 - (1) 燃料コックレバーを「運転」位置から「停止」位置にします。
 - (2) リングネジをゆるめてポットを外します。
 - (3) エレメントを取り出してガソリンで洗浄(すすぎ洗い)をします。このとき、汚れのひどい場合は交換してください。
 - (4) パッキンやエレメントにゴミが付着しないように元通りに組み付けます。

重要

- エレメントやパッキンは傷つけないようにしてください。また、なくさないでください。
- ゴミが燃料内に混入すると、故障の原因になります。
- 長期格納時、燃料コックレバーを「排出」位置にして、ドレンからガソリンタンク内の燃料を排出します。その後、キャブレターのドレンネジをゆるめて、キャブレター内の燃料を排出します。



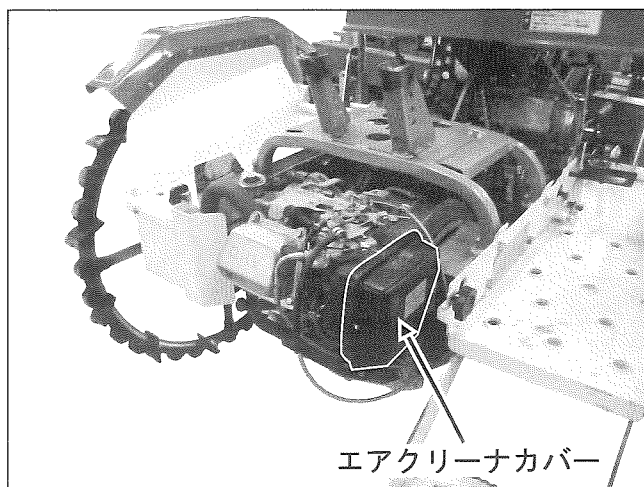
■エアクリーナエレメントの点検・掃除

重要

●エアクリーナにほこりが詰まったまま運転すると、エンジンの出力が低下したり、エンジンオイルが異常に消耗又は劣化し、エンジントラブルの原因となります。点検は運転前にかかさず行なってください。

●点検・掃除

- (1) エアクリーナカバーを取り外します。
- (2) エレメント(スポンジ)を取り外し、灯油又は家庭用洗剤で洗浄(もみ洗い)をします。このとき、汚れや破損のひどい場合は交換してください。
- (3) エレメント(スポンジ)を乾燥させます。
- (4) エンジンオイルに侵して固く絞ってから取り付けたあと、エアクリーナカバーを取り付けます。



■点火プラグの点検・掃除・調整

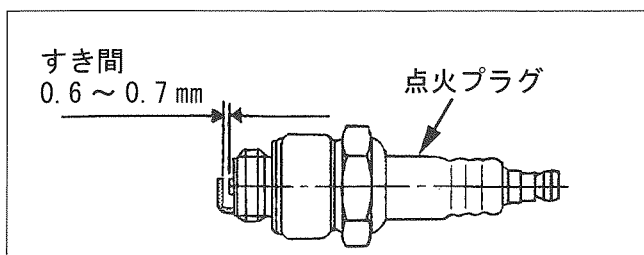
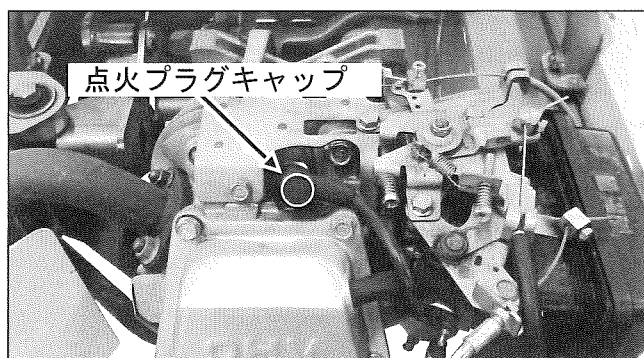
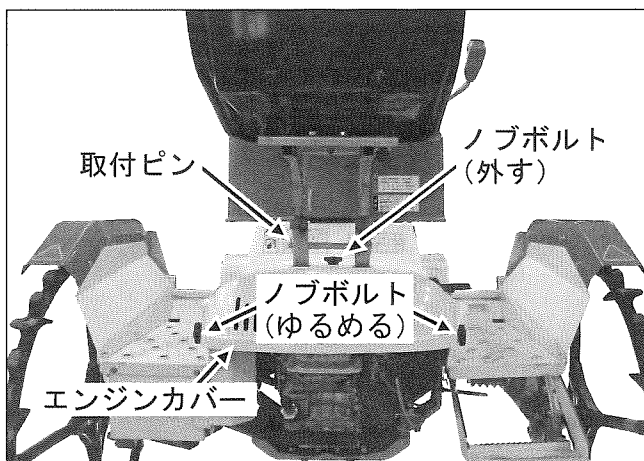
重要

- 点火プラグの電極が溶けて、すき間が広がったり、カーボンが付着したり、碍子(ガイシ)部が破損するとエンジンの不調の原因となります。
- 点火プラグを交換するときは、必ず同じ型式のものを使用してください。異なったプラグを使用すると、失火や始動不良をおこす恐れがあります。

点火プラグ型式
BPR5ES(NGK)

●点検・掃除・調整

- (1) シートステー元部の取付ピンを外し、座席を取り外します。
- (2) ノブボルト(2ヶ所)をゆるめます。
- (3) ノブボルト(1ヶ所)を外してエンジンカバーを取り外します。
- (4) 点火プラグキャップを外し、プラグボックスで点火プラグを取り外します。
- (5) ワイヤブラシで電極の汚れやカーボンを落として掃除したあと、電極のすき間を確認し、異常があれば、すき間調整又は、点火プラグの交換を行ないます。すき間は0.6~0.7mmに調整します。



■燃料ホースの点検・交換

⚠ 危険

燃料系ゴムホースが破損していると燃料もれを起し火災の原因となります。

●点検

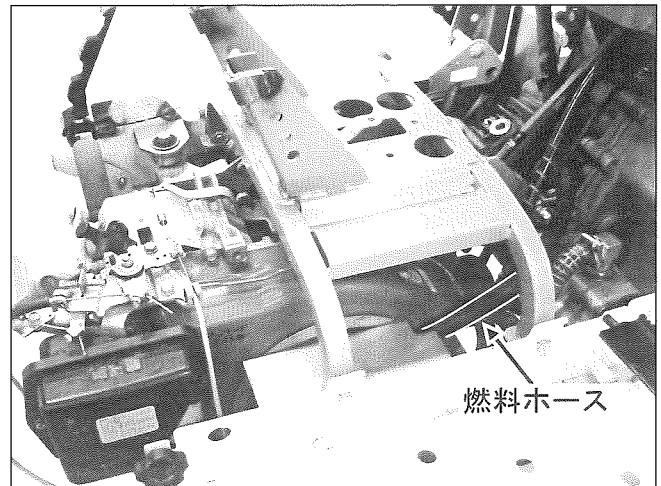
エンジン・燃料タンク各部にあるホースを点検し、油もれが発生しているときは、ホースの交換やバンドの締め付けを行なってください。

●交換

交換時の取付不良やバンドの締付忘れ、締付不足がないよう取り付けてください。

重要

- 油もれをしていなくても、2年経過しているときや劣化の激しい場合は交換してください。
- 交換時に各部にゴミが入らないように注意してください。
- 交換を行なうときは、購入先に連絡してください。



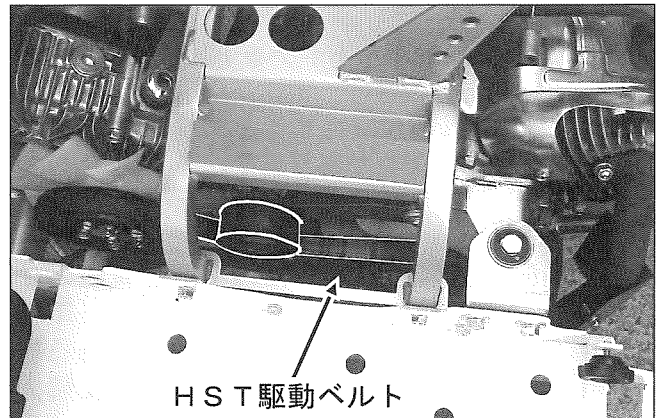
燃料ホース

■HST駆動ベルトの点検

●点検

ベルトを点検するときは、ベルトの焼付きや磨耗、被覆のはがれ、き裂やひび割れ、ベルトの底部とプーリー溝部のすき間を確認して、異常があれば購入先に連絡してベルト交換を行なってください。

また、パワステが重い、作業部の上昇スピードが遅いときは購入先に連絡してベルト交換を行なってください。



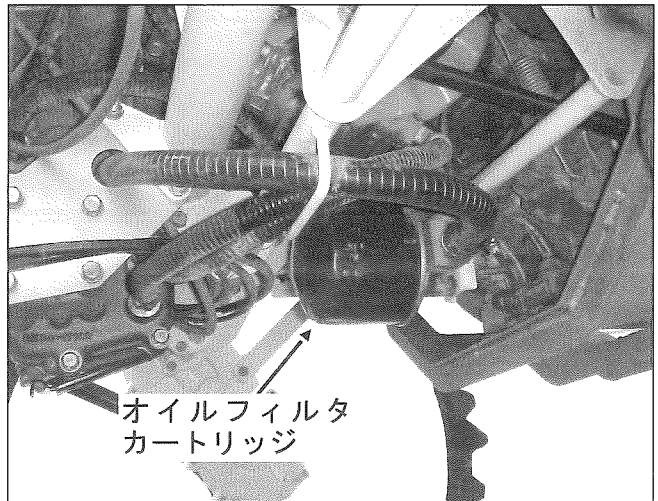
HST駆動ベルト

焼付きや磨耗	被覆のはがれ	き裂やひび割れ
×	×	×
○	×	

■変速ミッションオイルフィルタカートリッジの交換

●交換

- (1) 変速ミッションオイルを排出します。
(39 ページ参照)
 - (2) 専用工具を使用してカートリッジを取り外します。
 - (3) 新しいカートリッジはOリングにオイルを薄く塗布してから、専用工具を使用せず手で締め付けてください。
 - (4) オイルゲージの上限までオイルを補給した後、5分程度エンジンを運転して各部に異常がないことを確認してから、作業部を上昇させ、作業部固定フックで吊り、エンジンを止め、再度油面がオイルゲージの規定内にあることを確認してください。
- 取り外しかたや専用工具については、購入先にご相談ください。



重要

- 変速ミッションオイルを交換するときに、ゴミなどの異物が混入するとフィルタの目詰まりが早くなったり、変速ミッションの故障の原因となります。

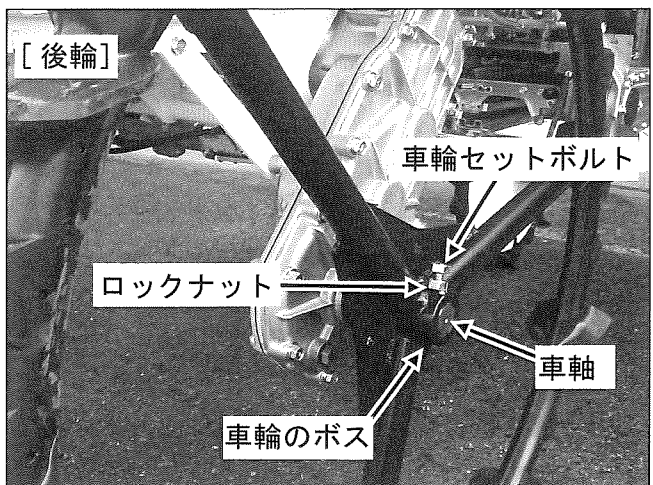
■車輪の点検

警告

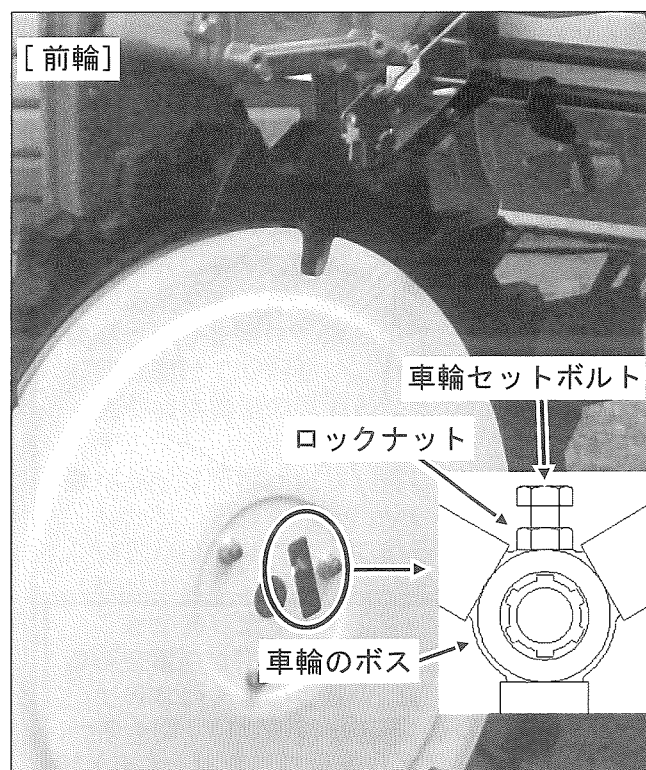
- (1) 車輪セットボルトやナットにゆるみがある場合や、車輪のボスと車軸にがたつきや摩耗、破損がある場合は、車輪が脱落し、衝突・転倒事故を引き起こす恐れがあります。
- (2) 車輪ゴム部が摩耗するとスリップを起こしやすくなるため、アユミ板の上などで脱輪して転倒する恐れがあります。

●点検

- (1) 前輪・後輪ともに車輪のボスと車軸のがたつきや摩耗、破損を点検します。車輪のボスと車軸に著しくがたつきがある場合や破損している場合は、ただちに購入先に連絡して交換してください。
- (2) 前輪・後輪ともに車輪ゴム部の摩耗や破損(ひび割れなど)を点検し、前輪は直径660mm以下、後輪は直径880mm以下の場合や破損がひどい場合は、購入先に連絡して交換してください。
- (3) 後輪はロックナットをゆるめ、車輪セットボルトを33～44N・m(330～450kgf・cm)で締め付けたあと、ロックナットを33～44N・m(330～450kgf・cm)で確実に締め付けてください。

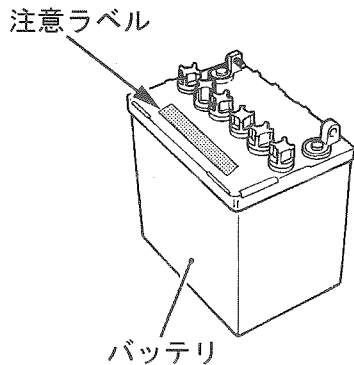


- (4) 前輪はロックナットをゆるめ、車輪セットボルトを $33 \sim 44\text{N}\cdot\text{m}$ ($330 \sim 450\text{kgf}\cdot\text{cm}$) で締め付けたあと、ロックナットを $33 \sim 44\text{N}\cdot\text{m}$ ($330 \sim 450\text{kgf}\cdot\text{cm}$) で確実に締め付けてください。



■ バッテリーの点検・交換

バッテリー上面に貼ってある取り扱いの注意ラベルをよく読んでください。



! 危険

- バッテリーの近くに裸火（マッチ、ライター、タバコの火など）を近づけたり、（+）端子と（-）端子が金属工具などの接触によって起こるスパークをさせないでください。バッテリーのガスで引火爆発する恐れがあります。
- バッテリーを取り扱うときは、必ず保護メガネとゴム手袋を着用してください。バッテリーに入っている電解液（希硫酸）により、失明ややけどの原因になります。
- 充電器やブースターケーブルを使用するときの取扱いは、それぞれの取扱説明書に従って行なってください。取り扱いを誤ると引火爆発する恐れがあります。
- この 12 V バッテリーはエンジン始動用ですから、他の用途には使用しないでください。
- 急速充電は厳禁です。
- 密封タイプのバッテリーは開封厳禁です。

! 警告

- バッテリーを乾いた布などで掃除しないでください。静電気により引火爆発する恐れがあります。

● 点検・補水

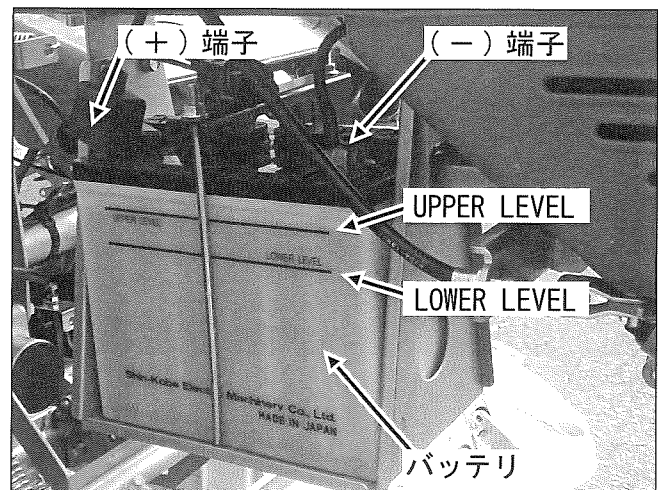
! 危険

バッテリーには補水不要なタイプと補水が必要なバッテリーの2種類がありますが、出荷時は補水が必要なバッテリーです。補水が必要なバッテリーについては、以下の事を守ってください。

- バッテリーは液面が LOWER（最低液面線）以下になったままで使用や充電をしないでください。
LOWER 以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され、バッテリーの寿命を縮めるばかりでなく、爆発の原因となることがあります。
すぐに UPPER LEVEL と LOWER LEVEL の間に補水してください。
- バッテリー液が体や衣服に付かないようにしてください。付着したときは、すぐに水で洗い流してください。電解液（希酸）によってやけどをすることがあります。

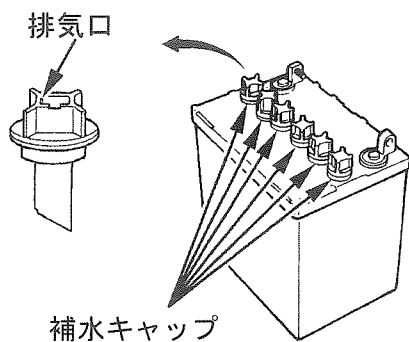
バッテリーの状態を点検し、異常があれば処置を行ないます。

- (1) エンジンを停止し、キースイッチを抜きます。
- (2) バッテリー液の量を点検し、[UPPER LEVEL] と [LOWER LEVEL] との間に液量があるか確認し、不足しているときは補水キャップを外して補水します。
- (3) バッテリーが破損して液もれが発生しているときは、交換してください。
- (4) 補水キャップの排気口にゴミなどが付着しているときは、掃除してください。
- (5) バッテリーケーブルの破損や（+）端子、（-）端子にゆるみがないか確認し、ケーブルの交換や端子の増し締めを行ないます。



重要

- バッテリー液が不足して極板が空气中に露出しますと、バッテリーの寿命は著しく短くなります。
- バッテリー液を補充する場合は、必ず精製水を補充してください。希硫酸・井戸水・泥水などは絶対に入れないでください。
- バッテリーに精製水を入れ過ぎないでください。液もれして機体を傷める恐れがあります。
- バッテリーの電解液は使っているうちに蒸発して減ってきます。
- 液もれが発生すると、車体が腐食する原因となります。
- 排気口をふさぎますと、バッテリー内部で発生するガスによりバッテリーの内圧が上がり、破損する原因となります。



● 補充電・交換

危険

- バッテリーを転倒させたり、衝撃を与えたりしないでください。電解液（希硫酸）のもれにより、失明ややけどをする恐れがあります。
- バッテリーを機体に取り付けた状態での充電は避けてください。バッテリーの引火爆発や機体損傷の原因となる恐れがあります。
- バッテリーを投げたり、落したり、斜めにしたり、衝撃を与えたりしないでください。バッテリーに入っている電解液（希硫酸）により、失明ややけどの原因となることがあります。
- 補充電中は補水キャップ全てを取り外して行ないますので裸火は近づけないでください。引火爆発する恐れがあります。

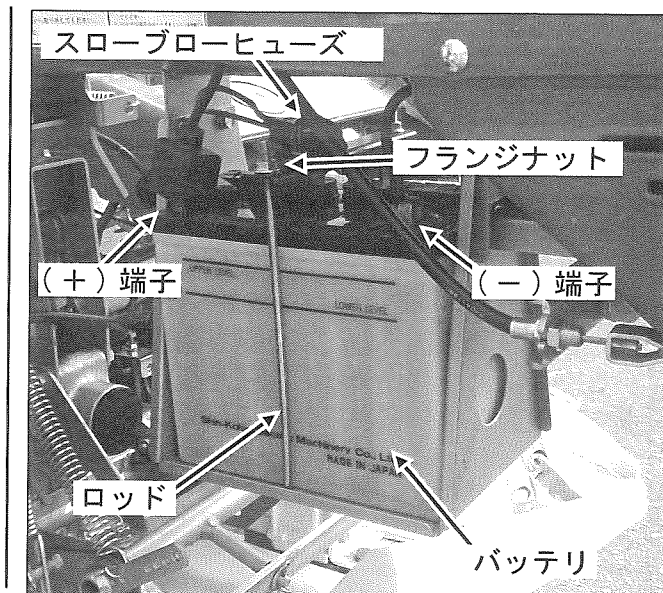
注意

- バッテリーは、以下の順序で取り換えてください。順序を誤ると、ショートによるスパークで引火爆発する恐れがあります。
 - ◎ 取外し… (一) 端子側（アース側）から外す。
 - ◎ 取付け… (一) 端子側（アース側）を最後に接続する。
- バッテリーの取り付け方向を間違えないでください。(+)と(-)が逆に取り付けられると接続ケーブルが損傷し、火災の原因となる恐れがあります。

次のような状態が発生したときは補充電を行なってください。また、補充電を行っても短時間で再発するときや状態が良くならないときは、バッテリーの寿命ですので交換を行なってください。

- スタータモータの回転がいつもより弱い。
- バッテリー電解液の減りが早い。

- (1) ケーブル端子のボルトとナットを取り外し、端子からケーブル端子を取り外します。取り外すときは、必ず(－)端子側から取り外します。
- (2) フランジナットを取り外し、バッテリー固定用のロッド2本を外します。
- (3) バッテリーを取り外します。
- (4) 補充電を行なうときは、平たんで風通しの良い場所を選んで行ないます。また、充電は、バッテリーの(＋)を充電器の(＋)側に、バッテリーの(－)を充電器の(－)側にそれぞれ接続して、普通の充電方法で行なってください。
- (5) 補充電が完了したら、取り外したときと逆の手順で取り付けます。



重要

- バッテリーを交換するとき、バッテリーは指定のバッテリーを使用してください。電圧や容量が違くと故障の原因になります。
バッテリー型式：30A19R
- バッテリーはエンジン始動用ですから、他の用途には使用しないでください。
- バッテリーはきちんと取り付けてください。傾いたりすると転倒や液もれの原因になります。
- 機械にバッテリーを搭載した状態で急速充電をしないでください。

■配線コード・ヒューズの点検・交換

警告

配線コード被覆の損傷やコネクタ（端子）の接触不良による、ろう電やショート（短絡）は火災の原因になります。

●配線コードの点検・交換

配線コードのコネクタ（端子）の接続状態を点検し、ゆるみや外れがあるときは確実に差し込んでください。

また、被覆の損傷状態を点検し、被覆が破れているときは、購入先へ連絡して交換してください。

●ブレードヒューズの交換

ヒューズ切れによる異常が発生したときは、ヒューズを交換してください。

(1) メインスイッチを「切」位置にしてエンジンを停止し、キースイッチを抜きます。

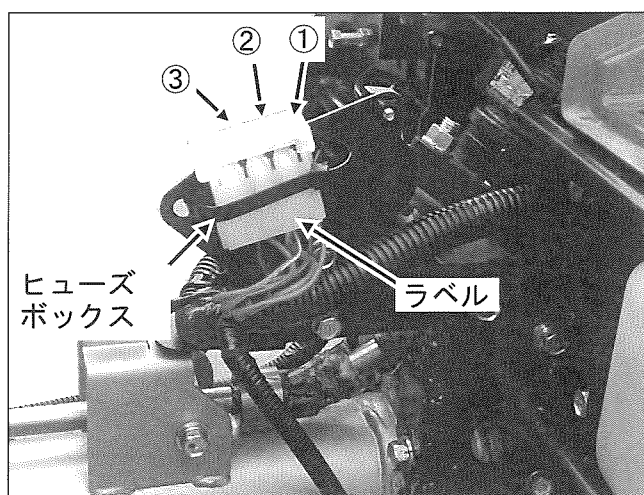
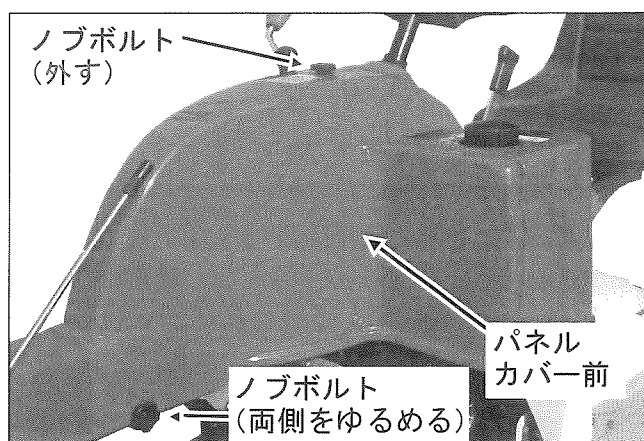
(2) ノブボルト（2箇所）をゆるめます。

(3) 残りのノブボルト（1箇所）を外し、パネルカバー前を外します。

(4) ヒューズボックスフタを開けて、切れたヒューズを引き抜いて外します。

(5) ヒューズが切れた箇所に同じ容量のヒューズを取り付けます。ヒューズボックス表面のラベルでヒューズの容量（A）を確認してください。

(6) 点検・交換後は取り外した時と逆の手順で取り付けます。



番号	回路	容量 (A)
1	マイコン電源	1
2	バックリフトモーター	15
3	アクセサリ	15

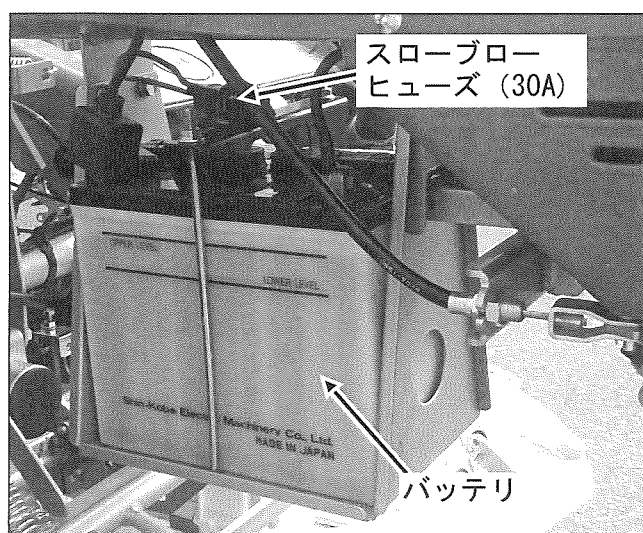
重要

●ヒューズを交換してもすぐに切れてしまう場合は、針金や銀紙などで代用せず、購入先に連絡してください。

●スローブローヒューズの交換

スローブローヒューズは過電流が流れたときに各配線が損傷しないように保護するためのものです。ブレードヒューズに異常が無いのに、メインパネルが点灯しないときは点検し、切れているときは交換してください。

●スローブローヒューズ（30A）



作業後の手入れ

作業終了後は、機械の点検・整備を怠らず翌日または、翌年の作業に備えてください。

■毎日の作業後

警告

- 掃除するときは、必ずエンジンを停止してから行なってください。

- (1) 平たんな場所に乗用管理機を止めます。
- (2) 水洗いをして機体各部の泥などを取り除いたあと、必要に応じて各部に注油を行ないます。(22 ページ参照)
- (3) 格納場所に格納します。
- (4) 作業部にスタンドを取り付けて作業部を接地させます。
- (5) メインスイッチを「切」にしてエンジンを停止します。
- (6) メインスイッチのキースイッチを抜き取ります。
- (7) 駐車ブレーキをかけます。

■長期格納時

危険

- 燃料抜き取り時は引火の恐れがあるので火気厳禁。

シーズンが終了して翌年まで長期間使用しないとき、格納する前に各部の点検・整備を念入りに行なってください。

●各部の掃除・注油と補修

機体を平たんな場所に止めて下記事項を行なってください。

- 水洗い後、ゴミ・水滴を充分ふき取り、油をしみこませた布で清掃してください。
- 各グリスの塗布箇所にはグリス、注油箇所には注油を行なってください。
- 塗布したグリスや油が横送りベルトに付着したら、必ずふき取ってください。
- 錆びやすい所にはグリスを塗ってください。
- 各部のゆるみを調べ、増し締めを行なってください。

重要

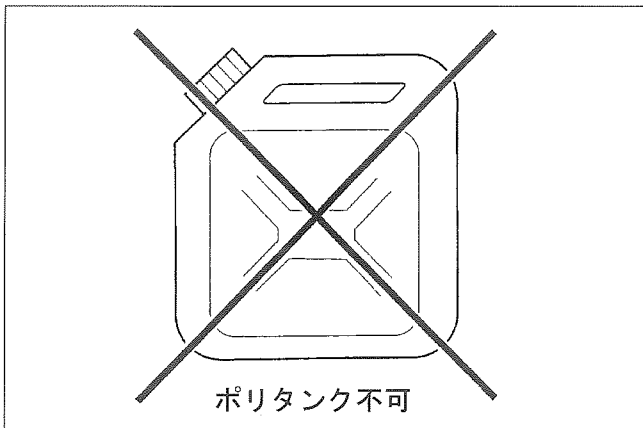
- 機体を洗う場合は、エンジンや電装品に水がかからないようにしてください。

●燃料

来シーズンに備えて燃料タンク内 (38 ページ参照) および燃料フィルターポット内 (40 ページ参照) のガソリンを抜き取ってください。

●重要

- 燃料のガソリンは1ヶ月以上放置すると、気化や酸化をしてガソリンが変質し、エンジンの不調や故障の原因となりますので必ずタンク内および燃料フィルターポット内のガソリンは抜き取ってください。
- 燃料を入れるときは、燃料コックレバーを必ず「停止」位置にし、エンジンを動かす前に「運転」位置にしてください。



●バッテリー

危険

保管や持運びの際にバッテリーに火気を近づけたり、ショートさせると爆発の危険がありますので注意してください。

注意

バッテリーを点検するときには、エンジンを停止し、メインスイッチを「切」にしてください。

長期間使用しない場合は、できるだけバッテリーを機体から取り外してください。また、以下の点に注意して保管してください。

- 保管前に点検し、必要に応じて補充電を行なってください。(バッテリー液補水タイプは、補水してから補充電を行なってください。)
- バッテリーは保管中でも自己放電するので夏は1ヶ月、冬は2ヶ月に1回それぞれ点検し、必要に応じて補充電を行なってください。
- 次のような場所に保管してください。
 - ①直射日光が当たらない(温度が低く変化の少ない)乾燥している場所。
 - ②雨露が少なく、水没の恐れがない場所。
 - ③バッテリーに有害なガスや液、粉塵の発生がない場所。

機体に取り付けたまま保管する場合は(－)側のケーブルを必ず取り外してください。

●各レバー・その他

点検・整備が終わったあと、格納場所に停めておくときは作業部を下ろして下記事項を行なってください。

- メインスイッチのキースイッチは、必ず抜き取って保管してください。
- 駐車ブレーキをかけてください。
- ほこりよけのため、適当なカバーをかけて保管してください。

不調時の処置

- 乗用管理機の点検、ほ場の良い条件作りに心がけてください。
- 下記の原因以外については部品の消耗等がありますので、購入先にご相談ください。

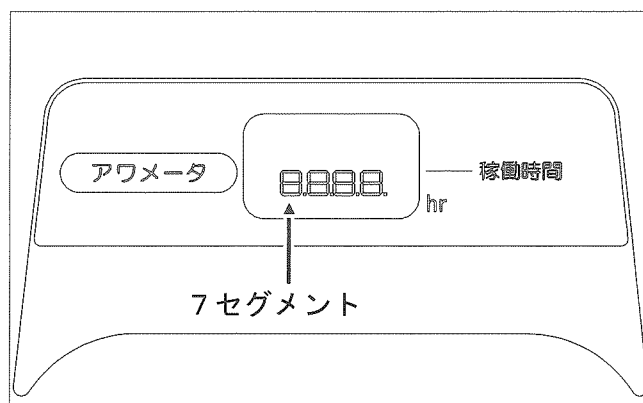
■メインパネルにエラーメッセージが表示される

⚠ 注意

- (1) 点検や処置を行なうときは、エンジンを必ず止めてください。
- (2) 取り外したカバー類は、必ず取り付けてください。

重要

- 機体に異常が発生したときには、故障を未然に防ぐためメインパネルの7セグメントにエラーコードが表示されます。そのままでも作業が行なえる場合もありますが、作業終了後は、購入先に下記の表示内容を連絡して処置してください。
- 作業時には異常に気づかないことがありますので、作業前にメインパネルを確認してください。



表示	エラー内容	解決方法
「IGon」と「LonG」の 2秒毎の交互表示	エンジン未始動エラー (キースイッチ「入」で20分放置した)	キースイッチを「切」にしてください。
「A1」と「0run」の 2秒毎の交互表示	バックリフトモーター終端未検出エラー (モーターが1.5秒以上作動している)	バックリフトモーター関係の異常です。 購入先に連絡してください。
「A1」と「S2on」の 2秒毎の交互表示	バックリフトモーター終端同時検出エラー (上と下のスイッチを同時に押している)	バックリフトスイッチの異常です。 購入先に連絡してください。

サービス資料

■主要諸元

型 式 名		みのるKE3A	
区 分		KE3A	
駆 動 方 法		3輪駆動	
機 体 寸 法	全 長 (mm)	2773	
	全 幅 (mm)	1340	
	全 高 (mm)	1658	
	最低地上高 (mm)	454(エンジンフレーム下部)	
機 体 質 量 (重 量) (kg)		294	
エ ン ジ ン	型 式 名	GB300	
	種 類	空冷4サイクルガソリンエンジン	
	総排気量 (L {c c })	0.296 {296}	
	出力/回転速度 (kW {PS} / r p m)	5.5 {7.5} / 3600 (最大7.3 {10.0})	
	使 用 燃 料	自動車用無鉛ガソリン	
	燃料タンク容量 (L)	6.0	
	始 動 方 式	セルスタータ	
走 行 部	か じ 取 方 式	1輪式(パワーステアリング)	
	車 輪	前 輪 (mm)	ゴムラグ (φ680、ラグカット)
		後 輪 (mm)	ゴムラグ (φ900、ラグカット)
	輪 距 (mm)		後輪 1220・1280
	軸 距 (mm)		1695
	変 速 方 式		油圧式トランスミッション[HST]
	変 速 段 数 (段)		HST 主変速: 前進無段・後進無段 [副変速: 2段]
作 業 速 度 (m / s)		0~1.2	
作 業 能 率 (分 / 10a)		15~30	

■標準付属品

次の部品が付属していますのでご確認ください。

○取扱説明書	_____	1
○保証書	_____	1
○安全運転説明確認票	_____	1
○工具袋	_____	1
プラグボックス	_____	1
スペアキー	_____	1

■主な消耗部品一覧表

場所	品名	部品番号	備考
ヒューズボックス	ヒューズ(1A)	RXE4-61104-2	ヒューズ切れ時交換
ヒューズボックス	ヒューズ(15A)	RXE4-61104-3	ヒューズ切れ時交換
バッテリー上部	スローブローヒューズ (30A)	RXE4-61104-1	ヒューズ切れ時交換
エンジン部	スパークプラグ	BPR5ES(NGK)	
	バッテリー	12V-24AH	
変速ミッションオイル フィルタカートリッジ	フィルタカートリッジ	RXD4-51601-1	
HST駆動ベルト	Vベルト LB35(AG6A)	RXD4-45308	亀裂、または磨耗 した場合交換
燃料タンク	燃料パイプCP	RXD4-42805	破損時または2年 ごとに交換

■注文部品の紹介

オプションとして下記のを準備していますので、用途に応じてご購入の上ご利用ください。
ご購入にあたっては機械の購入先にご相談の上、ご使用ください。なお、取り付けは必ず購入先で行なってください。

形状	品名	部品番号	備考
	ゴムラグ前輪 (左)CP	RX6-12407L	外径φ680 ラグ幅100
	①ゴムラグ後輪 (左)CP	LPRH6-13601L	外径φ900 ラグ幅100
	②ゴムラグ後輪 (右)CP	LPRH6-13601R	

サービス資料

形状	品名	部品番号	備考
	①MY車輪900 (左)AY ②MY車輪900 (右)AY	LPRH6-53202LAY LPRH6-53202RAY	外径φ900 ラグ幅120
	①後輪タイヤ900 (左)CP ②後輪タイヤ900 (右)CP	RT31-12013L RT31-12013R	外径φ900 ラグ幅95
	補助車輪AY	KE3-98000AY	補助車輪 外径φ800 ラグ幅80
	補助車輪AY (ラグ無し)	KE3-98100AY	補助車輪 外径φ850 ラグ幅50
	補助ステップAY	RXE4-92500AY	
	前輪補助ウェイト 10AY	KE3-95110(1)AY	前輪補助ウェイトは 最大50kgまで 積載可能
	チェーン除草AY	KE3-91000AY KE3-92000AY	4条用 6条用
	サンシェード	詳細は お問合せください	

メモ

A series of horizontal dashed lines for writing notes.

メモ

A series of horizontal dashed lines for writing, arranged in a regular grid pattern across the page.

メモ

A series of horizontal dashed lines for writing notes.

純正部品を使いましょう

補修用部品は、安心してご使用いただける純正部品をお買い求めください。
市販類似品をお使いになりますと、機械の不調や機械の寿命を短くする原因になります。

純正アタッチメントを使いましょう

純正アタッチメントは、いちばんよくマッチするように研究され、徹底した品質管理のもとで生産・出荷していますので、安心して使ってください。
市販類似品をお使いになりますと、作業能率の低下や機械の寿命を短くする原因になります。

国内排出ガス自主規制について



このラベルは、(社)日本陸用内燃機関協会の小形汎用エンジン排出ガス自主規制に適合していることを示します。

(社)日本陸用内燃機関協会：陸用エンジン業界の健全な発展と最新技術の開発を図り、併せて関連する諸製造業界の発展にも寄与することを目的とする団体で、環境保全の重要性を考慮して小形汎用エンジンの排出ガス浄化のため自主規制に取り組んでいます。

自主規制の内容については、下記のホームページにてご覧頂けます。

<http://www.lema.or.jp>



みのる産業株式会社

本社工場 〒 709-0892 岡山県赤磐市下市 447
TEL(086)955-1123 (代) FAX(086)955-5520

東京支店 〒 337-0042 埼玉県さいたま市見沼区南中野 210
TEL(048)683-9451 (代) FAX(048)683-9452

長野営業所 〒 389-1104 長野県長野市豊野町浅野 582-4
TEL(026)257-6530 (代) FAX(026)257-6531

徳島営業所 〒 771-1151 徳島県徳島市応神町古川字東 197
TEL(088)641-2311 (代) FAX(088)641-2324

九州支店 〒 818-0066 福岡県筑紫野市大字永岡 1020-1
TEL(092)921-6006 (代) FAX(092)921-6008

ホームページ <http://www.minoru-sangyo.co.jp/>